

232

古義真言宗
宗制類纂

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1 2 3 4 5

始



特224
958



古義真言宗
宗制類纂



古義真言宗
宗師院募

眞言宗高野派、御室派、大覺寺派ノ三派合同シテ古義真言宗ト稱
シ該宗憲宗規認可申請中ノ所十二月十四日附文部大臣ヨリ認可
相成候

右相達ス

大正十四年十二月十四日

高野派管長 大僧正 泉 智 等
御室派管長 大僧正 浦 上 隆 應
大覺寺派管長 大僧正 龍 池 密 雄

古義真言宗宗憲宗規並ニ本宗管長就職ノ儀十二月十四日附文部

大臣ヨリ認可相成候ニ付十二月二十日實施ス

大正十四年十二月十五日

古義真言宗管長 大僧正 泉 智 等

大正十四年十二月五日附申請其派合同シ古義真言宗ト稱スル件
許可ス

文部省言宗七九號

真言宗 高 野 派

真言宗 御 室 派

真言宗 大 覚 寺 派

大正十四年十二月五日附申請其派合同シ古義真言宗ト稱スル件

許可ス

大正十四年十二月十四日

文部大臣 岡 宗 田 良 幸

真言宗 高野派管長
真言宗 御室派管長
真言宗 大覺寺派管長

大正十四年十二月五日附申請古義真言宗宗憲宗規制定ノ件認可
ス
大正十四年十二月十四日

文部大臣 岡田良平

古義真言宗宗制類纂目次

(一) 宗憲

宗管會	布寺住	僧侶及教師	學階及教階	法衣	檀徒及信徒
宗長	職院	僧侶及教師	學階及教階	法衣	檀徒及信徒
務務	議議	教育	教育	教育	教育
長格	長格	長長	長長	長長	長長
一	二	三	四	五	六
二	三	四	五	六	七
三	四	五	六	七	八
四	五	六	七	八	九

黃寺有財產	一五
補會計則	一六
管長務	一七
宗規管長及門跡選舉規則	一九
宗規宗務規則	二二
職員分限規程(教令)	二三
職員服務規程(教令)	二四
職員俸給旅費支給規程(教令)	四五
職員懲誠規程(教令)	四五
宗務本支所執務細則(教令)	五六

二) 宗規並諸規程

宗規會議規則	二二
宗機顧問會規程(教令)	二三
宗規會議規則	二四
宗會議事細則(教令)	二五
參事會議事細則(教令)	二六
宗規議員選舉規則	二七
選舉取締規程(教令)	二八

法令布達規程(教令)	古
宗機顧問會規程(教令)	吉
宗規會議規則	克
宗會議事細則(教令)	老
參事會議事細則(教令)	九
宗規議員選舉規則	八
選舉取締規程(教令)	七

教 育

宗規教育規則	一三
留學及貸費銓衡規程(教令)	一五
補助學校認定取締規程(教令)	一六
高野山大學々則	一七
高野山中學々則	一八
高野山修道院制規	一九

三密學園制規則	一八三
尼衆學園規則	一九〇
高野山勸學財團寄附行爲	一九一
高野山勸學財團執務規程（教令）	一九二
大學完成委員會規程（教令）	一九三
社會事業取扱規程（教令）	一九四
社會事業取扱細則（教令）	一九五
古義真言宗社會事業協會々則	一九六

布 教 規 則

宗規布教規則	二二九
古義真言宗布教施行規程（教令）	二三三
大師教會並講社規程	二三四
教會教使取扱細則（教令）	二四五
教會所取扱規程（教令）	二五六

布教評議會規程（教令）	二六一
自治布教團規程（教令）	二六二
高野山大師教會支部並教會所々屬地保管規程（教令）	二六三
財團法人古義真言宗布教財團寄附行爲	二六六

寺 院

宗規寺格昇降規則	二七一
別院規程（教令）	二七七
宗規寺院等級資定昇降規則	二八〇
宗規寺院關係人規則	二八七

住 職

宗規住職任免規則	二九一
僧侶及教師	二九七
宗規僧侶分限規則	二九九
宗規僧籍規則	三〇七

宗規教師補任規則	三一五
教師檢定試驗規程(教令)	三一〇
宗規僧侶席次規則	三一六
宗規托鉢規則	三二一
生命保險加入獎勵規程	三二三
學階及教階	三二五
宗規學階教階補任規則	三二九
學階詮衡會規程(教令)	三三一
法 衣	三三五
宗規法衣規則	三三七
檀徒及信徒	三三八
宗規檀信徒取扱規則	三三九
賞 罰	三四一
宗規褒賞規則	三四四
宗規懲誠規則	三四九
寺有財產	三五二
宗規寺有財產管理規則	三五三
寺院所有地賣却ニ關スル内規	三五五
佛堂取扱ニ關スル内規	三五八
會 計	三六一
宗規會計規則	三六三
宗規宗費賦課及禮錄徵收規則	三六七
宗費賦課金减免規程(教令)	三八〇
寺 法	三九一
宗規總本山金剛峯寺々法	三九三
宗祖廟前參籠規程(教令)	三九〇
高野山境內整理規程	三九三
高野山內協議員會規程	三九六

高野山靈寶館規程	四三
高野山靈寶館施行細則	四三
宗規大本山仁和寺々法	四二
宗仁和寺護持財團寄附行爲	四五
宗規大本山大覺寺々法	四一
大覺寺護法財團寄附行爲	四五七
大覺寺護法財團寄附行爲	四七

(三) 御遠忌

弘法大師一千百年御遠忌大法會執行規定(教令)	四五
御遠忌大法會總豫算(教令)	四九
御遠忌大法會賦課金徵集法(教令)	四八三
寺院及檀徒賦課金(教令)	四八
弘法大師一千百年御遠忌報讚會趣意書並規定(教令)	四八四
御遠忌事務局職制(教令)	四八六
御遠忌大勸進教區規定(教令)	四九一

(四) 他派關係

真言宗各派聯合事相講傳所維持財團寄附行爲	四九七
財產目錄	五〇四
事相講傳所維持財團沿革畧記	五〇五
真言宗各派協約	五三
御修法ニ關スル協定書	五三〇
古義真言宗 新義真言宗 關係寺院取扱法	五三一
真言宗各派關係寺院取扱法細則	五三二
真言律宗轉派互融規約	五三五
同 追加規約	五六一
古義真言宗 華嚴宗 關係寺院取扱法	五六七
本淨土宗協定書	五六八
佛教聯合會規則	五六九

佛教聯合會々則施行規定
神佛道教會所規則
五七
五八

(五) 書式

古義真言宗々憲

大正十五年十二月六日教令第二十二號。昭和四年一月三十一日教令第四十一號。昭和四年二月二十七日教令第四十二號。昭和四年十一月二十日教令第四十八號。昭和六年三月廿日教令第六十一號修正。

第一章 宗格

第一條 本宗ハ古義真言宗ト稱ス

第二條 本宗ハ曼荼輪圓ノ宗體ニ基キ事教ニ相ニ亘リ秘密真言ノ奧旨ヲ傳ヘ即身成佛ヲ
體驗スルヲ以テ立教ノ宏謨トス

第三條 本宗ハ高祖ノ洪範ニ則リ鎮護國家濟世利人ヲ期スルヲ以テ教導ノ要義トス

第四條 本宗ハ大日如來ヲ本體トシ諸佛菩薩等ヲ別德トシ齊シク之ヲ崇信ス

第五條 本宗ハ左ノ經律論疏ヲ以テ所依トス

一、金剛頂經 一、大日經

其他三學錄所載ノ經律論及宗祖選述ノ章疏

第六條 本宗ノ傳統ハ八祖嫡傳ニシテ左ノ順序ニ依リ法脈ヲ繼紹スルモノトス

一、得度

一、四度加行

一、授戒

一、傳法灌頂

一、法流相承

第二章 管長

第七條 管長ハ宗規ノ定ムルトコロニ依リ之ヲ選定シ主務官廳ノ認可ヲ得テ就職シ其任期ヲ七ヶ年トス

但管長缺員ノトキハ執行長主務官廳ノ認可ヲ得テ管長事務取扱ニ就任スルモノトス

第八條 管長ハ宗憲宗規ノ條規ニ依リ一宗ヲ統理ス

第九條 管長ハ宗會ヲ召集シ其開會閉會停會及解散ヲ命ス

第十條 管長ハ宗會ノ協賛ヲ經テ宗憲宗規ヲ制定改廢シ主務官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ施行ス

第十一條 管長ハ宗憲宗規ノ制定改廢其他宗會ノ協賛ヲ要スル事項ニシテ緊急施行ノ必要アル場合宗會ノ協賛ヲ經ル暇ナキトキハ直ニ之ヲ定メ主務官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルユトヲ得

但此ノ場合ハ次期宗會ノ協賛ヲ要ス若シ賛同ヲ得サルトキハ管長ハ將來ニ向ツテ其効力ナキコトヲ告示スヘシ

第十二條 管長ハ宗憲宗規ヲ施行スルニ必要ナル教令訓示ヲ發ス

但教令訓示ハ宗憲宗規ニ抵觸スルユトヲ得ス

第十三條 管長ハ一宗統理ニ必要ナル機關ヲ設ケ其職員ヲ任免ス

- 第十四條 管長ハ教育及布教ヲ統管ス
- 第十五條 管長ハ寺院住職及教会所ノ等級ヲ査定昇降ス
- 第十六條 管長ハ寺院住職及教会所主任ヲ任免ス
- 第十七條 管長ハ度牒ヲ授與シ僧侶ノ分限ヲ定ム
- 第十八條 管長ハ教師等級ノ進退及補任ヲ行フ
- 第十九條 管長ハ教階學階ノ補任ヲ行フ
- 第二十條 管長ハ色衣被着ヲ允可ス
- 第二十一條 管長ハ托鉢ヲ免許ス
- 第二十二條 管長ハ僧侶ノ賞罰ヲ行ヒ其懲誡ノ特免減額及資格分限ノ復得ヲ命スルコトヲ
得
- 第二十三條 管長ハ檀徒信徒ヲ統管シ其褒賞ヲ行フ
- 第二十四條 管長ハ僧侶及檀徒信徒ニ對シ宗意安心ノ正否ヲ裁定ス

- 第二十五條 管長ハ一宗ノ財政及寺院ノ財産ヲ監督ス
- 第二十六條 管長ハ寺院教會所及僧侶ニ對シ宗費ヲ賦課徵收ス
- 第二十七條 管長ハ寺院又ハ僧侶其他ニ關シ他宗派ト關係スル事項ニ付關係宗派管長ト協
約ヲ締結スルコトヲ得

第三章 宗務

- 第二十八條 宗務所ヲ金剛峯寺ニ置キ管長總攬ノ下ニ宗務ヲ執行ス
- 第二十九條 宗務出張所ヲ京都及東京ニ置キ政府及各宗派ニ對スル宗務ヲ處理ス
- 第三十條 宗務支所ヲ各地ニ置キ地方ノ宗務ヲ處理ス
- 第三十一條 宗務機關ノ組織及職制ニ關スル規則ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三十二條 本宗ニ宗會及參事會ヲ置ク

第四章 會議

第三十三條 宗會ハ特選及公選ニ依ル議員二十九名參事會ハ宗會議員ノ互選ニ依ル議員七名ヲ以テ組織ス

第三十四條 宗會ハ宗憲宗規ニ明記セル事項及管長ニ於テ必要ト認メタル事項ヲ議決スルモノトス

第三十五條 參事會ハ宗憲宗規ニ明記セル事項ヲ議決シ並ニ宗會閉會後ニ於テ緊急必要ニ因リ豫算外支出ヲ要シ又ハ前年度豫算踏襲ノ場合ノ豫算實行上變更ノ必要ヲ生シタルトキハ經常臨時ヲ通シ豫算總額ノ六分ノ一以内ニ限り宗會ニ代リ之ヲ決議スルコトヲ得

第三十六條 宗會參事會及議員選舉ニ關スル規則ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 教 育

第三十七條 教育ハ宗祖ノ提撕ニ則リ道念ノ陶冶ヲ主トシ宗徒ニ必須ナル學科ヲ授クルモノトス

第三十八條 宗徒教育ノ爲メ財團法人ヲシテ高野山大學及専門部ヲ設ケシメ並ニ本宗ニ中學ヲ置ク

但必要ニ應シ特種ノ教育機關ヲ設クルコトヲ得

第三十九條 京都ニ事相講傳所ヲ置ク

第四十條 教育ニ關スル必要ナル規則ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 布 教

第四十一條 布教ハ高祖ノ垂訓ヲ奉シ教義ヲ宣布シ信仰ヲ扶植シ濟世利人ヲ以テ目的トス

第四十二條 本宗檀信徒ノ信仰固結ノ爲ニ高野山大師教會ヲ組織シ本部ヲ高野山ニ支部ヲ各地ニ置ク

第四十三條 布教ハ親教並ニ布教師ノ派遣其他寺院教會各自ニ於テ之ヲ行フ

第四十四條 布教ニ關スル必要ナル規則ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 寺院

第四十五條 寺院ハ佛祖ヲ安置シ教義ヲ宣布シ法儀ヲ執行シ僧侶ノ止住スル所トス

第四十六條 寺院ニハ住職ヲ置クヘキモノトス

第四十七條 寺院ノ寺格ハ左ノ十種トス

一、總本山

一、大本山

一、準大本山

一、別格本山

一、準別格本山

一、中本寺並一等格院

一、小本寺並二等格院

一、孫末寺並三等格院

一、曾孫末寺

一、玄孫末寺

第四十八條 別格本山以下ノ寺院ハ其收入ニ依リ特等地等地ノニ分チ特等地ヲ五等ニ分チ等地ヲ二十五等ニ分ツ

第四十九條 金剛峯寺ヲ總本山トシ仁和寺大覺寺ヲ大本山トス

第五十條 總本山大本山ハ宗内一般寺院ニ於テ維持確保ス

第五十一條 總本山及大本山寺法ハ別ニ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

準大本山以下ノ寺院ハ其寺法ヲ定メ管長ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

第五十二條 總本山以下末寺ヲ有スルモノハ其末寺ヲ監護シ其末寺住職ニ所傳ノ法流ヲ允可ス

第五十三條 寺院ノ本末關係寺院相互ノ關係ハ宗憲宗規ニ抵觸セサル限り慣例ニ從ハシムルモノトス

第五十四條 寺院ハ濫リニ他宗他派ニ轉換スルコトヲ得ス

第五十五條 寺院ハ宗規ノ定ムル所ニ依リ宗費ヲ負擔スヘキモノトス

第五十六條 寺格及寺院等級ノ查定昇降法會其他寺院ニ關スル規則ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第八章 住職

第五十七條 總本山金剛峯寺住職ハ座主ト稱シ管長ヲ以テ之ニ充テ其任期ハ管長ノ任期ニ依ル

但座主缺員ノトキハ管長事務取扱ヲ以テ座主事務取扱ニ充ツルモノトス

第五十八條 大本山仁和寺同大覺寺住職ハ門跡ト稱シ別ニ定ムル宗規ニ依リ選定シ管長之ヲ任命シ其任期ヲ七ヶ年トス

但門跡缺員ノトキハ執行ヲ以テ門跡事務取扱ニ任命スルモノトス

第五十九條 準大本山以下ノ寺院住職ハ宗規ノ定ムル所ニヨリ之ヲ任命ス

第六十條 住職ハ其寺院ヲ代表シ寺務ヲ執行ス

第六十一條 住職ハ徒弟教育ノ義務アルモノトス

第六十二條 住職任免其他住職ニ關スル規則ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第九章 僧侶及教師

第六十三條 得度式ヲ了ヘ度牒ヲ受ケタル者ヲ僧侶ト稱シ僧籍ニ編入シ僧名ヲ公稱セシム

第六十四條 試補以上ノ者ヲ教師トス

第六十五條 教師ノ等級及稱號ヲ定ムルコト左ノ如シ

等級 称號

一級 大僧正

二級 権大僧正

三級 中僧正

四級	權	中	僧	正
五級	少	僧	正	
六級	權	少	僧	正
七級	大	僧	都	
八級	權	大	僧	都
九級	權	中	僧	都
十級	少	僧	都	
十一級	權	少	僧	都
十二級	權	少	僧	都
十三級	律	師	補	
十四級	權	律	師	
十五級	試			

第六十六條 僧侶ノ資格分限ハ宗憲宗規ノ規定ニ依ルモノトス

第六十七條 僧侶ハ宗憲宗規ノ規定ニ基ク處分ノ外其有スル資格分限ヲ喪失スルコトナシ

第六十八條 僧侶分限及教師補任等ニ關スル規則ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第十章 教階及學階

第六十九條 教階及學階ハ宗内教師中其資格アルモノニ對シ管長之ヲ補任ス

第七十條 教階及稱號ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、主教 二、弘教 三、示教 四、輔教

第七十一條 學階及稱號ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、碩學 二、學匠 三、都講 四、司講

第七十二條 教階學階補任ニ關スル規則ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第十一章 法 衣

第七十三條 僧侶ハ法式ノ席ニ於テ規定ノ法衣ヲ着用スヘキモノトス

第七十四條 色衣ノ等差ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一、緋色
- 二、紫色
- 三、蔚色

第七十五條 法衣及色衣被着ニ關スル規則ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第十二章 檀徒及信徒

第七十六條 寺院ノ檀徒信徒ハ所屬寺院ノ檀徒信徒名簿ニ登録スルモノトス

第七十七條 檀徒ハ本宗ノ教旨ヲ信奉シ所屬寺院ニ葬祭追福ヲ依頼シ且ツ其寺院ノ永續維持ノ義務アルモノトス

第七十八條 信徒ハ本宗ノ教旨ヲ信奉シ所屬寺院ノ永續維持ヲ助クヘキモノトス

第七十九條 檀徒及信徒ハ本宗教團ノ擁護ニ任シ且ツ管長ノ教示ニ隨順スヘキモノトス

第八十條 檀徒信徒ノ取扱ニ關スル規則ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第十三章 賞 罰

第八十一條 僧侶及檀徒信徒ニ行フヘキ褒賞ハ左ノ四種トス

- 一、特遇 特遇狀ヲ授與シ教師一級ヲ昇補ス
- 二、殊賞 製裝若クハ法衣ヲ授與ス
- 三、優賞 適當ノ物品ヲ授與ス
- 四、褒詞 賞狀ヲ授與ス

第八十二條 僧侶ニ行フヘキ懲戒ハ左ノ七種トス

- 一、一宗擯斥 僧侶ノ分限ヲ奪ヒ僧籍ヲ削除ス
- 二、教師黜免 教師ノ資格及學階、教階ヲ褫奪ス
- 三、住職罷免 住職ヲ罷免シ教師等級及學階教階各一級ヲ降下ス

四、停 権 期間ヲ定メ住職ノ權限ヲ停止シ教師等級及學階教階各一級ヲ降下ス
 五、降 級 教師等級及學階教階各一級又ハ數級ヲ降下ス
 六、懺 悔 期間ヲ定メ指定ノ靈刹ニ於テ懺悔清行セシム

七、謹 責 其非行ヲ糺シ將來ヲ誠飭ス

第八十三條 褒賞並ニ懲戒ニ關スル必要ナル規則ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第十四章 寺有財產

第八十四條 寺院所有ノ財產ハ住職之ヲ管理ス

第八十五條 寺院所有ノ財產ハ濫リニ處分スルヲ許サス其收益ハ三寶護持ノ目的ニ反シ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第八十六條 寺有財產管理ニ關スル規則ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第十五章 會 計

第八十七條 宗費ハ寺院教會所及僧侶ヨリ徵收スル賦課金諸禮錄金剛峯寺寄贈金並ニ檀徒信徒志納金其他ノ収入ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

第八十八條 宗費ハ經常費臨時費ノ二種ニ分チ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

第八十九條 宗費ノ收支豫算ハ宗會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ムヘキモノトス

但緊急必要事項ニ限り參事會ノ權限内ニ於テ其ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ムルコトヲ得

第九十條 宗費徵收其他會計ニ關スル規則ハ宗規ヲ以テ之ヲ定ム

第十六章 補 則

第九十一條 本宗憲施行最初ノ管長ハ現高野派管長ヲ以テ之ニ充テ直ニ主務官廳ノ認可ヲ得テ就職シ現御室派管長現大覺寺派管長ハ其就職順ニ依リ順次主務官廳ノ認可ヲ經テ管

長ニ就職スルモノトス

但本條ニ依ル管長ハ任期ノ規定ヲ適用セサルモノトス

第九十二条 現大本山住職ハ引續キ其職ニアルモノトシ任期ノ規定ヲ適用セス

第九十三条 一般寺院住職教師資格及寺格等ハ從前ノ通リ之ヲ認ムルモノトス

但規則ノ改廢ニヨリ廢職又ハ異動ヲ生スルモノハ此限リニ非ス

第九十四条 大本山仁和寺及大覺寺維持確保ノ爲大正十五年ヨリ向フ十一ヶ年間ニ左記ノ
通リ基金ヲ蓄積スルモノトス

一金參拾萬圓也 仁 和 寺 一金貳拾萬圓也 大 覺 寺

但蓄積方法ハ當該本山寺法ニ於テ別ニ之ヲ定ム

第九十五条 前條蓄積年度滿了後ハ仁和寺大覺寺ノ經常費ヲ交付セサルモノトス

第九十六条 本宗憲ヲ改廢セントスルトキハ管長ノ發議ニヨリ宗會ニ附議シ宗會議員總數

三分ノ二以上ノ贊同ヲ得ルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス

第九十七条 宗憲宗規施行期日ハ特ニ其ノ規定アルモノノ外管長ニ於テ之ヲ定メ發布ス
ルモノトス

管長 宗規管長及門跡選舉規則

宗規管長及門跡選舉規則

大正十五年五月十五日告示第九號、昭和四年一月三十一日教令第四十一號、昭和四年二月二十
七日教令第四十二號修正

- 第一條 本則ハ宗憲第二章第七條及第八章第五十八條ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 管長及門跡選舉ハ教令ヲ以テ之ヲ行フ
- 第三條 管長及門跡選舉ハ任滿ノトキハ滿期前百日缺員ノトキハ缺員後百日ノ間ニ後任者ヲ選定スルモノトス
- 第四條 管長及門跡選舉ハ本宗寺院住職中教師等級三級以上ノ者ヲ候補者トシ本宗寺院正住職及教會所主任教師タル者ヲシテ選舉セシム
- 管長選舉ニ限リ眞言宗各派寺院住職中三級教師以上ノ者ヲ被選人ニ加フルコトヲ得
- 管長選舉ニハ本宗現管長前管長ヲ門跡選舉ニハ本宗現管長前管長並ニ現門跡前門跡ヲ被管長及門跡選舉規則

選人ニ加ヘサルモノトス

第五條 管長及門跡選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ

第六條 管長及門跡選舉ハ投票ノ最高點者ヲ以テ當選者トス

但同點者二名以上アルトキハ教師等級ノ高キモノヲ教師等級同シキトキハ年長者ヲ採ル
モノトス

第七條 當選者ニシテ當選ヲ辭シタルトキハ次點者ヲ以テ之ニ充ツ

第八條 第六條第七條ノ選舉ニ於テ候補者ノ得票五百票以上ナルヲ要ス之ニ達スル者ナキ
トキハ再選舉ヲ行フモノトス

第九條 管長及門跡選舉ニ關シテハ本則規定ノ外宗規議員選舉規則ヲ準用ス

附 則

第十條 第四條昭和四年一月改正規定ハ次ニ行フ選舉ヨリ之ヲ施行ス

宗務

宗規 宗務規則
職員分限規程
職員服務規程
職員俸給旅費支給規程
職員懲誠規程
宗務本支所執務細則
法令布達規程
宗機顧問會規程

宗規宗務規則

大正十五年五月十五日告示第九號、昭和四年一月三十一日教令第四十一號、昭和四年十一月二十日教令第四十八號、昭和六年三月二十日教令第六十一號修正

第一條 本則ハ宗憲第三章第三十一條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 宗務所ニ庶務教務學務財務ノ四部ヲ置キ總務局ヲ以テ之ヲ統率ス

第三條 總務局及各部ノ事務所管ヲ左ノ通り定ム

總務局

一、宗憲宗規ノ制定改正ノ原案作製ノ件

一、重要文書ノ起草及查閱ノ件

一、宗務所其他各機關ノ職員進退ニ關スル件

一、宗會及參事會ニ關スル件

一、宗務重要書類收發ノ件

一、統計報告書ノ調製ニ關スル件

一、重要印章保管ノ件

一、總大本山重要寺務ニ關スル件

一、上局會議ニ關スル件

一、綱紀肅正ニ關スル件

庶務部

一、寺格昇降ニ關スル件

一、寺籍及僧籍ニ關スル件

一、住職任免並ニ住職候補者登録ニ關スル件

一、檀徒信徒ニ關スル件

一、賞罰ニ關スル件

一、宗務出張所及支所ニ關スル件

- 一、管長門跡議員等選舉ニ關スル件
- 一、官衙並ニ他宗派ニ關スル件
- 一、他部ノ所管ニ屬セサル件

教務部

- 一、一般布教施設ニ關スル件
- 一、教會講社組織ニ關スル件
- 一、教階補任ニ關スル件
- 一、布教師任用ニ關スル件
- 一、内地海外視察ニ關スル件
- 一、教會所及說教所ニ關スル件
- 一、布教講習ニ關スル件
- 一、自治布教ニ關スル件

一、布教評議會ニ關スル件
學務部

- 一、宗立及關係學校ニ關スル件
- 一、教師檢定ニ關スル件
- 一、教師補任及色衣允可ニ關スル件
- 一、留學生及貸費生ニ關スル件
- 一、徒弟教育ニ關スル件
- 一、大學評議會ニ關スル件
- 一、學階補任及學階證衡會ニ關スル件
- 一、法式及法服ニ關スル件
- 一、感化救濟及慰問ニ關スル件
- 一、一般社會事業ニ關スル件

財務部

- 一、寺院建造物及佛像什器ニ關スル件
- 一、寺院等級ニ關スル件
- 一、寺院財產及各種財團ニ關スル件
- 一、宗費賦課徵收ニ關スル件
- 一、禮錄其他收入ニ關スル件
- 一、交付金及俸給等支出ニ關スル件
- 一、寺債及募財ニ關スル件
- 一、特別會計ニ關スル件
- 一、宗內公機關ノ豫算決算ノ認定ニ關スル件
- 一、豫算決算ニ關スル件
- 一、金錢出納及保管ニ關スル件

一、物品購入及配給ニ關スル件

第四條 宗務所ニ執行長一名執行四名主事若干名主事補若干名書記若干名ヲ置ク
但必要ニヨリ雇員ヲ置クコトヲ得

第五條 執行長ハ總務ト稱シ管長ヲ補佐シ總務局ヲ主宰シ一般宗務執行ノ責ニ任ス

執行ハ部長ト稱シ管長及總務ヲ補佐シ各其ノ所管ノ事務ヲ掌理シ其責ニ任ス
主事主事補ハ上長ノ命ヲ受ケ總務局及各部ノ事務ヲ分擔ス

書記以下ハ上長ノ指揮ニヨリ事務ニ從事ス

第六條 執行長ハ管長ニ於テ宗内寺院正住職中六級教師以上ノ者ニ就キ宗機顧問ニ諮詢ノ上之ヲ特任シ其任期ヲ四ヶ年トス

執行ハ執行長ノ推薦ニ依リ管長之ヲ任命シ執行ノ任期ハ執行長ノ進退ニ伴フモノトス
主事及主事補ハ執行長ノ推薦ニ依リ管長之ヲ任命シ書記以下ハ執行長之ヲ任命ス

第七條 執行長選定ニ關シ管長ノ諮詢ニ應スル爲宗機顧問ヲ置ク

前項選舉ニ就テハ宗規議員選舉規則ヲ準用ス

宗機顧問ハ七名トシ左ノ標準ニヨリ宗内寺院正住職教會所主任ヲシテ選舉セシメ其任期ヲ五ヶ年トシ補缺就任ノモノハ其殘任期間トス

一、高野山内寺院正住職中ヨリ二名

一、其他宗内寺院正住職中ヨリ五名

第八條 總務局ニ上局會ヲ設ケ宗務及總大本山寺務ノ重要事項ヲ審議決定スルモノトス
上局會ハ執行長並ニ宗務所執行及總大本山執行ヲ以テ組織シ執行長ヲ以テ主査トス

但御遠忌事務局總監及高野山大中學長ハ其所管事務ニ關シ必要ニ應シ特ニ加フルコトヲ得
第九條 左記ノ事項ハ上局會ニ附議スヘキモノトス
一、宗憲宗規ノ制定改正及教令訓示等ノ成案並ニ發布ニ關スル件
一、豫算決算ニ關スル件

- 一、豫算外又ハ豫算超過支出ノ件
- 一、諸官衙並ニ他宗派ニ關スル件
- 一、三級以上ノ教師及弘教學匠以上ノ教階學階補任ノ件
- 一、住職ノ特任又ハ裁定ニ關スル件
- 一、宗務所其他各機關ノ主事補以上ノ職員進退ニ關スル件
- 一、待遇ノ褒賞及懲戒以上ノ懲誡ノ件
- 一、統計報告ニ關スル件
- 一、財團法人設立及寄附行爲變更ニ關スル件
- 一、管長及議員等ノ選舉ニ關スル件
- 一、宗會及參事會ニ關スル件
- 一、總務局及各部所管事務中重要ト認ムル事項
- 一、總大本山事務ノ重要ナル事項

一、其他執行長ニ於テ必要ト認メ又ハ執行ヨリ提議スル事項

第十條 京都宗務出張所ハ他宗派ニ對スル事項ヲ東京宗務出張所ハ政府ニ對スル事項ヲ所
管トス

第十一條 東京京都兩出張所ニ所長各一名ヲ置キ其事務ヲ掌理セシムルモノトス

第十二條 出張所長ハ管長之ヲ任命ス其任期ハ別ニ定メス

但本山執行ニ於テ兼任ノトキハ其任期ニ依ルモノトス

第十三條 宗務支所ノ管區及名稱ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、東京支所 東京府

一、埼玉支所 埼玉縣

一、山梨支所 山梨縣

一、神奈川支所 神奈川縣

一、群馬支所 群馬縣

一、福井支所	福井縣
一、石川支所	石川縣
一、富山支所	富山縣
一、靜岡支所	靜岡縣
一、三重支所	三重縣
一、愛知支所	愛知縣
一、岐阜支所	岐阜縣
一、和歌山支所	和歌山縣
一、奈良支所	奈良縣
一、京都支所	山城國
一、兩丹支所	京都府ノ内 丹波國丹後國
一、大阪支所	大阪府ノ内 攝津國

一、河內支所	河內國
一、和泉支所	和泉國
一、播磨支所	播磨國
一、淡路支所	淡路國
一、兵庫支所	兵庫縣ノ内 攝津國丹波國
一、但馬支所	但馬國
一、德島支所	德島縣
一、香川支所	香川縣
一、愛媛支所	愛媛縣
一、備前支所	備前國
一、美作支所	美作國
一、備中支所	備中國

二、鳥取支所　鳥取縣
 一、島根支所　島根縣
 一、廣島支所　廣島縣
 一、山口支所　山口縣
 一、福岡支所　福岡縣
 一、大分支所　大分縣
 一、肥前支所　佐賀縣長崎縣

一、北海道支所　北海道

第十四條　總大本山山内塔頭寺院ハ當該本山事務所ノ管轄トシ前條管轄以外ノ寺院ハ宗務所ノ直轄トス此場合特ニ事務取扱ヲ任命シ其區域内宗務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトアル
 ヘシ但開教地ハ其地ノ開教監督又ハ布教管理者ヲ以テ支所事務取扱ヲ命スルコトヲ得

第十五條　宗務支所ニハ支所規約ヲ定メ管長ノ認可ヲ得テ施行スルモノトス

第十六條　宗務支所ニ於テ取扱フ事務ハ左ノ如シ

一、宗憲宗規其他宗務所ノ令達執行ニ關スル事項

一、管内寺院教會所僧侶及檀信徒ノ諸願伺届ノ審査並ニ奥書進達ニ關スル事項

一、管内子弟教育布教並ニ風紀ノ振興策勵ニ關スル事項

一、宗費並ニ支所費ノ徵收及之カ命令ニ關スル事項

一、寺院ノ興廢並ニ賞罰ニ係ハル事實ノ調査及宗務所ヘ具伸ニ關スル事項

一、管内寺院教會所ノ僧侶及檀信徒間ニ於ケル紛議ニ關スル事項

一、代議員會議ノ開閉及地方宗務上必要ノ施設ニ關スル事項

第十七條　宗務支所ニ所長一名副所長若干名ヲ置ク

所長ハ管内ノ宗務ヲ掌理シ其責ニ任ス

副所長ハ所長ヲ補佐シ所長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第十八條　所長副所長ハ管内寺院正住職並ニ教會所主任ヲ選舉人及被選舉人トシ選出セシ

メ管長之ヲ任命シ其任期ヲ三ヶ年トス

第十九條 地方宗務執行不能ト認メタルトキハ管長ハ所長ヲ解任シ所長事務取扱フ宗務所員ニ命スルコトアルヘシ

但此場合ニ其任期ヲ六ヶ月トシ更ニ所長ヲ選舉セシムルモノトス

第二十條 宗務支所ノ經費ハ其管内寺院教會所ノ負擔トシ其賦課徵收ハ宗費徵收規定ヲ準用ス

第二十一條 宗務支所ノ歲入歲出ノ豫算ハ管長ノ認可ヲ得テ施行スヘキモノトス

第二十二條 宗務支所ノ經費ハ其金額當該支所下寺院ノ負擔セル宗費ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

但特別ノ事情アリテ管長ノ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第二十三條 宗務支所ハ管内寺院教會所ノ請願伺届等ヲ進退スルニ就テ禮錄又ハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得ス

附 則

第二十四條 宗務支所ノ規約及豫算其他重要事項議決ノ爲メ支所ニ代議員ヲ置ク

第二十五條 代議員ノ定數ハ當該支所ニ於テ之ヲ定メ其管内寺院正住職教會所主任ヲ以テ選被選人トシ之ヲ選舉ス其任期ヲ三ヶ年トシ補缺就任ノトキハ前任者ノ殘任期トス

第二十六條 所長副所長及代議員ノ選舉ハ當該支所ニ於テ之ヲ行ヒ所長ヲ以テ選舉長トス但此選舉ニハ本則ニ定ムルモノノ外宗規議員選舉規則ヲ準用ス

第二十七條 宗務支所役員ハ滿期後モ後任者就職ニ至ルマテ在職スルモノトス

第二十八條 宗務ニ關シ本則ニ定ムル外必要ナル細則ハ別ニ教令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 本則第七條ノ宗機顧問七名ハ本宗規施行ノ初期ニ限り選舉ヲ用ヒス規定ノ標準ニ依リ管長ニ於テ總本山及大本山住職ニ諮詢ノ上之ヲ特任スルモノトス

第三十條 執行長事故ニ依リ缺員ノトキ後任執行長就職ニ至ル迄ノ間ハ管長ニ於テ總大

本山住職ノ協議ヲ經テ臨時執行長ヲ特任シ其職務ヲ執行セシムルコトヲ得

職員分限規程

昭和六年三月二十日教令第六十號制定

三六

第一條 本規程ニ於テ職員ト稱スルハ宗務所並ニ總大本山其他宗内公機關ノ職員ヲ謂フ

第二條 職員ノ分限ヲ左ノ四種トス

一、親命 管長又ハ總大本山住職ノ親裁ニ依リ任命スル者

一、特命 公選又ハ推薦ニ依リ特ニ管長又ハ總大本山住職ノ名ヲ以テ任命スル者

一、直命 各機關主長ニ於テ直ナニ其ノ名ヲ以テ任命スル者

一、所命 各機關事務所ノ名ヲ以テ任命スル者

第三條 親命特命直命ヲ各三級ニ所命ヲ二級ニ分チ其職員ノ等級ヲ定ム

第四條 職員ノ分限等級ハ左ノ標準ニ依ルモノトス

		親 命			特 命			直 命			所 命			二 級			命		
		一 級	二 級	三 級	一 級	二 級													
宗務所	總務部長	執行長	執行長	執行長	總務部長	總務部長	總務部長	主事	主事	主事	支長長	副所長	主事補	書記	書記	書記	書記心得	書記心得	
總大本山	大學長	大學長	大學長	大學長	大學長	大學長	大學長	同上											
宗立大學	中學長	中學長	中學長	中學長	中學長	中學長	中學長	助教諭											
宗立中學	教務	舍監	生徒監	生徒監	舍監	舍監	舍監	學生監											

第五條 宗會議長、副議長、宗機顧問、總大本山耆宿顧問、隨化布教師ハ親命二級ノ待遇宗會議員、會計監查員、學階詮衡員、布教評議員ハ親命三級ノ待遇開敎監督及現任布教師ハ親命三級乃至特命二級ノ待遇支所代議員ハ特命三級ノ待遇トス

第六條 職員中ニ於テ其閱歷及功績ノ顯著ナルモノハ特旨ヲ以テ規定ノ標準ヨリ一級上

位ノ待遇ヲ與フルユトアルヘシ

第七條 親命職員中功勞アルモノハ退職後特旨ヲ以テ前職ノ待遇ヲ與フルコトアルヘシ

第八條 特命以下ノ職員ハ現級ニ於テ二ヶ年以上勤續セル者ニ限リ其ノ技能ト成績トヲ
考查シ其分限内ニ於テ等級ヲ進ムルコトヲ得

第九條 職制上他ノ職務ニアル者ヲ以テ兼任又ハ充當スルモノハ本職ノ分限待遇ニ從フ
モノトス

但兼任又ハ充當ノ職務ノ分限カ本職ヨリ上位ニ當ルトキハ其待遇ヲ受クルコトヲ得

第十條 前各條ニ規定スル以外ノ職員並ニ各種財團及臨時施設機關ノ職員ハ其職務ノ性
質ト人牴ノ資格トニ應シ相當ノ分限待遇ヲ定ムルモノトス

第十一條 左記各號ノ一一該當スルモノハ職員ニ任命スルコトヲ得ス

- 一、禁錮以上ノ刑ノ執行ヲ終リ三ヶ年ヲ經過セサルモノ又ハ執行猶豫中ノ者
- 二、禁治產者及準禁治產者

三、破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

四、公民權ヲ喪失シ復權セサル者

五、懲誠處分中ニアル者

第十二條 職員中左記各號ノ一一該當スルモノハ其職ヲ免スルユトヲ得

- 一、第十一條ノ第二、三、四號ニ當ル事項アリタルトキ
 - 二、自己ノ都合ニ依リ辭職ヲ出願シタルトキ
 - 三、身心ノ疾患ニ依リ職務ニ堪ヘサルトキ
 - 四、懺悔以上ノ懲誠處分ヲ受ケタルトキ
 - 五、疾病ニ依リ九十日以上私事ニ依リ六十日以上缺勤シタルトキ
 - 六、宗費怠納ニ依リ懲誠處分ヲ受ケタルトキ
- 第十三條 任期アル職員ハ其任期満了シタルトキハ別ニ規定アルモノノ外辭令ヲ用ヒ斯當
然退職者トス

第十四條 職員ハ其機關ノ廢止又ハ法規ノ改正ニ依リ廢職トナリタルトキハ當然退職者トス

第十五條 直命以下ノ職員ハ其停年ヲ滿六十歳トシ停年ニ達シタルトキハ之ヲ解任スルモノトス

但更ニ嘱託又ハ雇員ニ任命スルコトアルヘシ

第十六條 職員中左記各號ノ一ニ該當スルモノハ休職ヲ命スルコトヲ得

- 一、懺悔以上ノ懲誠事犯ニ依リ審査ニ附セラレタルトキ
- 二、刑事案件ニ關シ起訴セラレタルトキ
- 三、兵役關係ニ依リ召集セラレタルトキ
- 四、疾病ニ依リ六十日以上私事ニ依リ三十日以上缺勤シタルトキ
- 五、法規ノ改正ニ依リ剩員ヲ生シタルトキ
- 六、事務上必要ナルトキ

第十七條 休職ハ六ヶ月以内トシ其期間ヲ過キタルモノハ退職者トス

但必要ニ依リ再任ヲ命シタルモノハ此限リニアラス

第十八條 職員中懲誠處分ニ依リ免職セラレタルモノハ爾後二ヶ年ヲ經サレハ公職ニ就ク

コトヲ得ス

但降級以上ノ處分ニ依リ免職サレタルモノハ特免ノ後二ヶ年ヲ經ルユトヲ要ス

職員服務規程

四二

昭和六年三月二十日教令第六十號制定、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

- 第一條 本規程ハ宗規宗務規則第二十八條ニ依リ之ヲ定ム
 - 第二條 職員ハ職務ノ内外ヲ問ハス綱紀ヲ亂シ體面ヲ汚スノ行爲アルヘカラス
 - 第三條 職員ハ上下ノ秩序ヲ重シ上長ノ命令ヲ嚴守スヘシ
 - 第四條 職員ハ上長ノ指示セル事項其他執務上ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得
 - 第五條 職員ハ其職務ニツキ忠實熱切ヲ旨トシ公平周密ノ處置ヲ爲スヘシ
 - 第六條 職員ハ宗務上ノ機密ヲ漏洩シ又ハ未發ノ文書及案件ヲ他人ニ私不スヘカラス
 - 第七條 職員ハ上長ノ認許ヲ得ス濫リニ保存ノ原簿臺帳處分濟ノ書類ヲ他人ニ閲覽セシメ若クハ貸與スヘカラス
 - 第八條 職員ハ名義ノ如何ニ拘ラス其職務ニ關係シタル謝禮又ハ贈物ヲ私ニ之ヲ受ケルコトヲ得ス
- 但公式ニ關スル贈答ハ此限リニアラス
- 第九條 職員ハ上長ノ認許ヲ得サレハ本職ノ外ニ給料ヲ受クヘキ他ノ事務ニ從フコトヲ得ス
 - 第十條 職員ハ上長ノ認許ヲ得ス擅ニ職務ヲ離レ又職務ノ爲居住スヘキ地ヲ離ルヽコトヲ得ス
 - 第十一條 各機關ノ上長ハ其部内職員ヲ督勵シ事務ヲ整理シ過誤怠慢ナキヲ期スヘシ
 - 第十二條 職員ハ相互ニ協調聯絡ヲ保持シ事務ノ簡捷ヲ計ルト共ニ失態ナキコトニ勤ムヘシ
 - 第十三條 職員ニ於テ疾病其他ノ事故ニ依リ出勤セサル時ハ其事由ヲ届出ツヘシ二日以上ノ缺勤及請暇ハ豫メ上長ノ認許ヲ得ヘキモノトス執務時間中ニ事故又ハ疾病ニ依リ早退セントスルトキハ亦上長ノ承認ヲ受クヘシ
 - 第十四條 特命以下ノ職員ハ出勤シタルトハ自ラ出勤簿ニ捺印スヘシ

第十五條 職員ハ派出ヲ命セラレタキハ歸所後直ニ詳細ナル報告書ヲ提出スヘキモノト
ス

第十六條 職員中本規程ニ違反シタルモノハ職員懲誠ノ條項ニ照シ相當ノ處分ヲナスモノ
トス

第十七條 職員中懲誠處分ヲ受ケタル行爲ヨリ生スル損害ニツキ代價ヲ以テ賠償シ得ヘキモ
ノハ之ヲ辨償セシム

第十八條 職員所管ノ器具文書等ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ代價ヲ以テ辨償シ得ヘキモ
ノハ之ヲ辨償セシム

第十九條 職員ニ於テ所管ノ金員物件ヲ私消シ又ハ濫用シタルモノハ懲誠處分ヲ爲スノ外
其費消セシ金員物件ヲ辨償セシム

第二十條 職員ノ職務權限ニツキ疑義アルトキハ上局會ニ附議シ之ヲ決ス

第二十一條 本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

職員俸給旅費支給規程

昭和六年三月二十日教令第六十號制定

第一條 宗内各機關ノ職員ノ俸給及旅費ハ本規程ニ依リ之ヲ支給ス

但特別ノ職務ニアルモノ及別ニ規定アルモノハ此限リニアラス

第二條 職員ノ俸給ハ其分限等級ニ應シ左表ニ依リ月額ヲ定メ之ヲ支給ス

但特別ノ事情アル場合ハ分限等級以下ノ俸給ヲ支給スルコトアルヘシ

分限	親	命	特	命	直	命	命	所	命
等級	一級	二級	三級	一級	二級	三級	一級	二級	三級
月俸額	自一五〇円至二〇〇円	自二〇〇円至二五〇円	自二五〇円至三〇〇円	自三〇〇円至三五〇円	自三五〇円至四〇〇円	自四〇〇円至四五〇円	自四五〇円至五〇〇円	自五〇〇円至五五〇円	自五五〇円至六〇〇円
至	二〇〇	二五〇	三〇〇	三五〇	四〇〇	四五〇	五〇〇	五五〇	六〇〇
自	一五〇	二〇〇	二五〇	三〇〇	三五〇	四〇〇	四五〇	五〇〇	五五〇

第三條 嘴託及雇員ハ其職務ノ性質ニ依リ適宜其額ヲ定メ月俸又ハ日給トスルコトヲ得
但停年ニ依リ更ニ嘴託又ハ雇員ニ任シタルモノハ前俸給ヨリ一級乃至三級ヲ下ル範圍ニ

於テ支給額ヲ定ムヘシ

第四條 新任又ハ昇給及増俸ノ場合ハ其分限等級ノ範圍内ニ於テ支給額ヲ定ムルモノトス

第五條 特命以下ノ職員ハ一ヶ年以上ノ勤務成績ヲ考察シ五圓以内ニ於テ増俸スルコトアルヘシ

但増俸ト共ニ其分限内ニ於テ等級ヲ進ムルハ前級ニ於テ二ヶ年以上ヲ勤績シタルモノタルヲ要シ特旨ニ依リ分限ヲ越へ一級ヲ進メ待遇ヲ與フル場合ハ前級ニ於テ四ヶ年以上ヲ勤續シ其成績優良ナルモノニ限ル

第六條 職員中臨時ニ他ノ職ヲ兼ヌル者ニハ其俸給標準最低額ノ三分ノ一以内ニ於テ兼務手當ヲ支給スル事ヲ得

第七條 臨時ニ設ケタル機關ノ職員ノ俸給ハ其分限待遇ニ應シ適當ノ額ヲ定メ之ヲ支給スルモノトス

第八條 職員中俸給ノ定メナキ職務ヲ兼掌スルモノハ適宜其額ヲ定メ特別手當ヲ支給スルユトヲ得

第九條 休職者ニハ事情ニ依リ其休職中ニ限り在職當時ノ月俸ノ三分ノ一以内ノ額ヲ支給スルコトアルヘシ

第十條 月俸ハ毎月二十五日ニ支給ス

但當日休日ニ當ルトキハ順延又ハ繰上ケ支給スルモノトス

第十一條 新任又ハ退職、休職、轉任ノ場合ニ一ヶ月ニ滿タサル端數ハ其月ノ在職日數五日迄毎ニ月俸ノ六分ノ一ノ割ヲ以テ支給ス

第十二條 疾病ノ爲メ六十日以上又ハ私事ニ依リ三十日以上ニ亘リ缺勤スル者ハ其ノ後缺勤ノ月俸ハ半額ノ割ヲ以テ支給ス

但端數ニ對スル俸給ノ計算ハ前條ニ準ス

第十三條 轉任ニ依リ俸給ノ異動及増俸減俸ノ場合ノ支給計算モ亦第十一條ニ準シ日數ハ

發令ノ日ヨリ起算ス

第十四條 辞職、任満又ハ休職免職ノモノ事務引繼及殘務整理ノ爲メ特ニ命ヲ受ケ事務ニ從事シタルトキハ其間從前ノ通り俸給ヲ支給ス

第十五條 職員ノ二期慰勞ハ曆年ニ依リ半期ニ對シ月俸ノ八割宛ヲ六月、十二月ノ兩度ニ之ヲ支給ス

第十六條 二期ノ慰勞ハ在勤六ヶ月未滿ナルトキハ總テ月割ヲ以テ計算シ一ヶ月未滿ハ第十一條ニ準ス

第十七條 特命以下ノ職員ハ私事ニ依ル缺勤カ半期ヲ通シ十日ヲ超ユルトキハ其超過ノ缺勤日數及其事情ヲ參酌シ適宜ニ慰勞ノ支給額ヲ減スルコトアルヘシ

第十八條 特命以下ノ職員中半期ヲ通シ缺勤三日以内且執務成績ノ優良ナルモノハ規定ノ外ニ精勤慰勞ヲ給スルコトアルヘシ

第十九條 特別ノ事務ニ從事シタル職員ニハ其都度應分ノ慰勞ヲ給スルコトヲ得

第二十條 職員ノ退職又ハ轉任ノ場合ハ左ノ標準ニ依リ退職慰勞ヲ支給スルモノトス

一、親命職員ハ在職期間中ノ月俸ノ七割五分ニ在職年數ヲ乘シタル金額

一、特命以下ノ職員ハ在職期間中ノ月俸ノ五割ニ在職年數ヲ乘シタル金額

第二十一條 退職慰勞ノ在職年數ハ其職務ニ就任ノ日ヲ起點トシテ年月ヲ算シ一ヶ月未滿ハ月割ニ依リ一ヶ月未滿ハ第十一條ニ準シ計算スヘシ

第二十二條 法規ノ改廢又ハ事務上ノ都合ニ依リ退職スルモノハ其事情ヲ參酌シ規定ノ退職慰勞ノ外ニ特別慰勞ヲ支給スルコトアルヘシ

第二十三條 嘱託又ハ雇員其他兼任及臨時職員ニ對スル退職慰勞ハ相當標準以内ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

第二十四條 休職ヲ命セラレタル者ハ其時ニ於テ規定ニ依リ退職慰勞ヲ給スルモノトス

第二十五條 職員中懲誠ニ依リ免職ノモノハ退職慰勞ヲ給セサルモノトス

但情狀ニ依リ規定ノ半額以内ヲ支給スルコトアルヘシ

第二十六條 宗會議員ハ左ノ標準ニ依リ歲費ヲ支給ス

一、宗會議長 歲費金百拾圓也

一、同副議長 同 金百圓也

一、同議員 同 金九十圓也

第二十七條 宗會議員ノ歲費ハ會期中總テ出席セサルモノハ之ヲ支給セス亦會期日數ノ三分ノ二以上缺席ノモノハ其半額ヲ支給スルモノトス

第二十八條 宗會議員ノ歲費計算ハ會計年度ニ依リ宗會閉會ノ日ニ之ヲ支給ス

第二十九條 臨時宗會開會ノ場合ニ出席シタル議員ニハ臨時手當金四拾五圓宛議長ハ二割増副議長ハ一割増ノ割ヲ以テ之ヲ支給ス

第三十條 參事會員ハ召集ニ應シタル毎ニ手當金參拾圓宛ヲ支給ス

第三十一條 宗會議員ニシテ失格又ハ辭任ノ場合ハ其年度ノ歲費ヲ支給セス

但補缺就任ノモノハ召集ニ應シタルトキ其歲費ヲ受クルモノトス

第三十二條 宗會議員並ニ參事會員ハ其開會中失格若クハ辭任ノ場合ハ歲費又ハ手當ノ半額ヲ支給ス

第三十三條 宗機顧問耆宿會計監査員等ノ手當ハ召集ノ都度一日七圓宛トシ前後ヲ通シ一日ヲ加算シ之ヲ支給スルモノトス

但單ニ應分ノ慰勞ヲ給スル慣例ノモノハ此限りニアラス

第三十四條 職員ノ旅費ハ汽車貨、船貨、車馬貨、宿泊料、中食料、出張手當ノ六種トシ左表ノ等級ニ從ヒ現居住地ヨリ起算シ普通ノ順路ニ依リ之ヲ計算支給ス

五 級	同	同	汽 車 貨		船 貨		車 馬 貨 一里二付	宿 泊 料 一里二付	中 食 料 一回二付	出 張 手 営 一日二付
			一 級	一 等 貨	一 等 貨	一 等 貨				
		同	三 級	三 等 貨	同	同	一、五〇	一〇、〇〇	四、〇〇	六、〇〇
		同	四 級	三 等 貨	六〇	八〇	一、〇〇	五、〇〇	一、五〇	二、〇〇
		同	五 級	三 等 貨	四〇	三〇〇	一、〇〇	一、五〇	一、〇〇	一、〇〇

第三十五條 管長座主門跡ハ 一級 親命職員ハ 二級

特命職員ハ 三級 直命職員ハ 四級

所命職員ハ 五級ノ標準ニ依リ之ヲ支給ス

第三十六條 旅行中及滯在ノ宿泊料ハ夜數ニ應シ中食料ハ度數ニ應シ手當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス

但船中旅行ニ於テ食事ノ附屬スル場合ハ中食料宿泊料ヲ支給セサルモノトス

第三十七條 汽車旅行及水路旅行ノ場合別ニ急行料金ヲ要シタル時ハ之ヲ支給スルコトアルヘシ

第三十八條 汽車賃、船賃、車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ各種ヲ計算シ之ヲ支給ス

但車馬賃ハ當然電車ヲ使用スヘキ旅程ハ其賃金ニ依リ其他ハ旅程里數ヲ計算シ端數ハ總テ一里ノ割ヲ以テ支給ス

第三十九條 一日ノ行程ハ汽車ハ三百二十杆汽船ハ百浬陸路ハ十二里トシ數種ニ瓦ル旅行

ハ各種一日行程標準ノ十分ノ一ヲ一時間ノ旅程トシ十時間ヲ以テ一日行程トスル日數ヲ超過スルコトヲ得ス

第四十條 川止雪支等ノ爲メ迂廻スルトキハ之ヲ順路ト見做シ亦止ムヲ得サル事故ニ依リ途中ニ滯在シタル時ハ旅行中ニ算入スルコトヲ得

第四十一條 近距離出張ノ場合ニ半日以内ニ歸所シタルトキハ其要セシ旅費ヲ支給スル外手當ヲ給セサルモノトス

第四十二條 旅行ノ性質ニ依リ又ハ天變事故ノ爲メ定額ノ汽車賃、船賃、車馬賃ヲ以テ支辨シ難キ場合ハ其要セシ實費ヲ支給スルコトヲ得

但滯在中公務ノ都合ニ依リ特別經費ヲ要シタルトキハ亦同シ

第四十三條 職務上ノ特待ニ依リ電車、汽車、汽船ノ賃金ヲ要セサル場合ハ其料金ヲ支給セサルモノトス

第四十四條 巡回調査等ノ爲メ常ニ旅行ヲ要スルモノハ適宜其旅費額ヲ定メ月額又ハ日額

ヲ以テ之ヲ支給スルコトアルヘシ

第四十五條 法會其他ノ用務ヲ以テ地方在住者ニ派出ヲ命シタルトキノ旅費ハ規定ノ範圍内ニ於テ適宜之ヲ支給スルコトヲ得

第四十六條 新任轉任又ハ退職休職ノ場合ハ規定ニ依ル旅費並ニ左表ノ等級ニ從ヒ赴任又ハ歸郷ノ準備手當ヲ支給ス

但任務地一里以内ニ住居ズルモノ並ニ繼續及轉任ニ付居住地ノ異動ヲ要セサルモノハ支給ノ限リニアラス

一、親命職員	準備手當	金參拾圓
一、特命職員	同	金貳拾圓
一、直命職員	同	金拾五圓
一、所命職員	同	金拾 圓

第四十七條 宗會議員、宗機顧問等ノ召集ニ應シタル場合ノ旅費ハ分限待遇相當ノ標準ニ

依リ之ヲ支給ス

但出張手當ハ之ヲ算入セサルモノトス

第十四八條 宗會議員ハ宗會解散セラレタルトキハ歸郷旅費ヲ支給セサルモノトス

第四十九條 懲誠ニ基キ休職又ハ免職トナリタル職員ハ歸郷旅費及準備手當ヲ支給セサルモノトス

職員懲誡規程

昭和六年三月二十日教令第六十號制定

五六

第一條 本規程ニ於テ職員ト稱スルハ宗務各機關及總大本山ノ職員ヲ云フ

第二條 職員懲誡ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

- 一、服務規律ヲ紊シタルトキ
- 二、職務上ノ義務ニ違背シタルトキ
- 三、職務ヲ怠リ又ハ他ノ職務執行ヲ妨害シタルトキ
- 四、職務上重大ノ過失アリタルトキ
- 五、職員タル體面ヲ汚シ又ハ信用ヲ失フヘキ行爲アリタルトキ
- 六、誠飭ヲ受ケ尙改悛セサルトキ

第三條 懲誡ノ課目順位ハ左ノ如シ

一、免職

二、減俸

三、譴責

第四條 本規程ニ依リ免職セラレタルモノハ滿二ヶ年以上ヲ經ルニアラサレハ職員タルコトヲ得ス

第五條 減俸ハ一ヶ月以上六ヶ月以内ニ於テ俸給ノ三分ノ一以下ヲ減ス

第六條 第三條第二號以下ノ懲誡ニ處セラレ猥リニ抗爭シタルモノハ更ニ一級上位ノ懲誡ニ處ス

第七條 職員中懲誡スヘキ行爲アリタルトキハ上級職員ハ其ノ證據ヲ添へ總務局ニ申告スヘシ

第八條 職員ハ他ノ職員ノ爲自己ノ職務執行ヲ妨害セラレタルトキハ其證據ヲ添へ總務局ニ申告スヘシ

第九條 懲誡ハ本人ニ就キ直接事實ノ調査ヲナサヌシテ之ヲ行フコトヲ得ス

但本人カ當局ノ尋問ニ應セス又ハ調査ヲ妨クル場合ハ此限リニアラス

第十條 職員ニシテ懲誠スヘキ行爲アルモ其状情輕シト認メタルトキハ誠飭ヲ加フ

第十一條 本規程ハ他ノ制規ニ依リ懲誠ヲ受クルモノニ適用セス

第十二條 本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

宗務本支所執務細則

大正十五年六月二十五日教令第十四號制定、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

第一章 總 則

第一條 本細則ハ職員服務規程第二十一條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 宗務本支所ノ事務ハ宗規並ニ諸規定ニ定メレタルモノ、外本細則ニヨリ取扱フ
ヘキモノトス

第二章 宗務所執務

第三條 宗務所ノ事務ヲ總務局並ニ庶務、教務、學務、財務ノ各部ニ分チ總務統理ノ下
ニ各部長各々所管事務ヲ分掌ス主事ハ總務並ニ部長ノ指揮ニ從ヒ擔當ノ事務ニ從事シ廻
覽濟書類ヲ處理ス書記ハ上長ノ指揮ニ從ヒ各自擔當事務ニ從事ス

第四條 宗務所ニハ公文書類ヲ保管シ又寺籍簿僧籍簿寺有財產簿檀信徒名簿印鑑簿其他

必要ナル帳簿圖書類ヲ備へ置クモノトス

第五條 總務局ニ決裁簿ヲ備へ重要事項ノ決裁綱目ヲ記載スルモノトス

第六條 各部ニ擔當簿ヲ備へ擔當事務ノ經過ヲ記載スヘシ

第七條 宗務所ニ到着ノ文書ハ收發擔任者ニ於テ開封シ受付簿ニ番號並ニ年月日ヲ記入シ且ツ支所及氏名並ニ件名ヲ登記シ各部擔任者へ配布ス擔任者ハ其件名簿ニ認印ヲ押捺スヘシ

但添付セル金券ハ財務部へ回附スルモノトス

第八條 文書ハ擔任者ニ於テ查閱シ其處理案ヲ起草シ回覽ニ附スヘシ

但宗費ノ納否及寺院簿僧籍簿其他ノ書類ト照合スル必要ナル書類ハ之ヲ對照シ立案スルモノトス

第九條 處理案ノ起草ハ事理簡明ナルヲ要ス一定ノ文例ニ依ルモノハ別ニ回覽書ヲ附セス一定ノ印ヲ文書ノ餘白ニ押捺シテ決裁ヲ求メ施行スルコトヲ得

第十條 規定ノ手續ヲ具備セサルモノノ訂正改刪ヲ要スル書類ニ對シ申入シ又ハ返却スル回覽案ハ擔任部長之ヲ檢シ決行ス

但他部ニ關連スルモノ及重要書類ハ當該部長或ハ總務ノ同意ヲ經ルモノトス

第十一條 諸願届書ノ任免及受認可理スル處理案ハ所管部長並總務之ヲ檢シ決裁ス

但重要願書類ハ各部長ノ裁定ヲ經ルモノトス

第十二條 裁決済ノ文書ハ淨書校合ノ上台帳又ハ回覽書件名簿ト割印ヲナシ公印ヲ押捺シ發送簿ニ其宛名及送附年月日ヲ登記シ發送スヘシ

第十三條 淨書校合及發送者ハ其回覽書ニ認印ヲ捺スヘシ

第十四條 文書ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外所名又ハ總務名ヲ以テ施行スヘシ
但各部ノ分掌事務處理上部名又ハ部長名ヲ以テ通牒照複ヲナスコトヲ得

第十五條 同文書ヲ印刷配布スル場合ニハ發布者ノ名ノ下ニ公印ヲ省略スルコトヲ得

第十六條 諸帳簿ノ手入レハ毎月末ニ一括シテ主任ノ檢閱捺印ヲ得ルモノトス

第十七條 各派協約ニ基ク住職並ニ轉籍願取扱ハ左ノ通リトス

一、晋住又ハ轉籍人他派ノ人体ナルトキハ本人所屬宗務所ヘ支恬照會ヲナスコト

一、本宗寺院正住職カ轉住或ハ辭職ノトキ本人カ他派所屬寺院ヲ兼務シタル場合該兼務ハ自然消滅スルヲ以テ兼務寺所屬宗派へ事後報告ヲ爲スコト

第十八條 完結文書ハ各部ニ於テ種別分類シ編纂保存シ其保存ハ規定アルモノノ外左ノ四種ニ區別ス

第一種 永久保存

第二種 十年保存

第三種 三年保存

第四種 一年保存

第十九條 諸規定ノ基礎トナリ歴史ノ資料トナルヘキモノ主務官廳トノ往復文書及永久保

存ノ必要アル文書ハ第一種トス

第二十條 寺籍僧籍ニ關スル請願届出書類或ハ復命書及三ヶ年以上參照ノ要アルモノト認メタル文書ヲ第二種トス

第二十一條 上申、報告、請願、伺届、統計材料ノ書類ニシテ一ヶ年以上參照ノ要アリト認ムル文書ヲ第三種トス

第二十二條 原簿臺帳ニ登録ヲアシタル諸申請又ハ報告書類ニシテ一ヶ年以上參照ノ要ナシト認ムル文書ハ第四種トス

第二十三條 保存期間滿了ノ文書ハ總務ノ承認ヲ經テ廢棄シ其年月日ヲ保存臺帳ニ登記スヘシ

第二十四條 本所書記ハ交替ヲ以テ宿直スヘキモノトス

但宿直規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二十五條 宗務執務時間ハ左ノ通りトス

九月十一日ヨリ翌年六月三十日迄ハ午前九時ヨリ午后四時迄トス

七月一日ヨリ九月十日迄ハ午前八時ヨリ午后三時迄トス

但八月中ハ正午十二時迄トス

第二十六條 休日ハ左ノ通リトス

一、日曜日

一、大祭祝日

一、御影供

一、常樂會

一、佛生會

一、宗祖誕生會

一、盂蘭盆會『三日間』

一、本宗創立記念日

一、年末年始（十二月二十六日ヨリ一月五日マテ）

第二十七條 七月一日ヨリ九月十日迄ノ間ニ於テ所員交代シテ三週間ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第三章 宗務支所執務

第二十八條 宗務支所ハ其部内ノ教學及人法ノ隆替ニ關シ宗憲宗規及諸規定ニ依リ事務ヲ管掌スル所トス

第二十九條 所長ハ管長并ニ總務ノ指揮監督ヲ受ケ其管内ノ宗務ヲ掌理シ副所長ハ所長ヲ補佐シテ事務ヲ處辨ス

第三十條 宗務支所ニハ受付簿、寺院簿、僧名簿、法類末寺總代及檀信徒總代簿、會計簿、宗費徵收簿、寺院財產簿、發送簿、日誌等ヲ備ヘ付ケ諸願、伺届等事務ノ經過ヲ詳細ニ記載シ置クヘシ

第三十一條 諸願書ノ取扱ハ其事實及當該寺院宗費ノ納否ヲ調査シ未納ノモノハ必ス上納

セシメタル上進達スヘシ

第三十二條 諸願書ハ總テ一通トス

但宗務支所ノ控ハ別トス

第三十三條 宗費徵收簿ハ左ノ雛形ニ依リ調製シ宗務所ヨリノ賦課通知書ノ通り臺帳頁數ノ順ニ記載スヘシ

年度	市		町大字		(本所臺帳頁數)		何寺院	
	費	目	第	一	期	第	二	期
昭和	等級累進課金			昭和	年		昭和	年
臨時費實收入割				月	日		月	日
兼務寺院特別課金			領收印	昭和	年	領收印	昭和	年
御遠忌費實收入割			領收印	月	日	領收印	月	日
合計			領收印	年		領收印	年	
外ニ支所費			上納印	昭和	年	上納印	昭和	年
合計			領收印	月	日	領收印	月	日

年	昭和		昭和		昭和		昭和	
	月	年	月	年	月	年	月	年
等級累進課金								
臨時費實收入割								
兼務寺院特別課金			領收印	昭和	年	領收印	昭和	年
御遠忌費實收入割			領收印	月	日	領收印	月	日
合計			領收印	年		領收印	年	
外ニ支所費			上納印	昭和	年	上納印	昭和	年
合計			領收印	月	日	領收印	月	日

第三十四條 宗費上納ノ際ハ年度、期別、支所領収日、金額、臺帳頁數、寺院名ヲ帳簿ト對照シ臺帳頁數ノ寺院順ニ依リ上納表二通ヲ左ノ雛形ニ依リ作製シ宗務所ニ提出スヘシ
宗務所ハ前項二通上納表ノ内一通ハ本所へ受理シ一通ハ領収セシ旨ヲ記載證印ノ上之ヲ當該支所ニ返戻シ別ニ各寺院宛ノ領収證印交付セサルモノトス

【送金ノ場合ハ成ル可ク振替口座ヲ利用セラルヘシ】

【大阪七十六五四 古義眞言宗宗務所】

宗費上納表

一
金

內
譯

也

總額

第三十五條 宗務所并ニ總大本山其他ヨリ受理セル書類ハ總テ綴リ置キ保管スヘシ

第三十六條 完税支度ノ具狀及請願書等造達ノ與書ハ總務課長ノ名前以テ之

第三十七條　宗務支所ハ昇級、度牒、住職等凡ヘサ任命ヲ得タルモノハ本人へ辭令交付ニテ

先達諸帳簿ノ手入レヲ怠ラサル様注意スヘシ

第三十八條 諸願書類ノ用紙ハ必ス半紙ヲ用ユヘシ

高野山其他各大本山塔頭寺院ノ諸願、同、屆ハ其本山寺

各地散在ノ宗務所直轄寺院ハ直接宗務所へ提出スヘシ

法令布達規程

七〇

昭和六年三月二十日教令第六十號制定

第一條 本宗ノ法令布達ノ式ヲ教令、訓示、達令、布告ノ四種トス

第二條 教令ハ宗憲宗規ノ發布及其條規ニ依リ執行スル事項其他施行上必要ナル規程ヲ定ムル爲メ管長ノ發スル命令ヲ謂フ

第三條 訓示ハ一宗ノ教權及治安ニ關シ又ハ教育布教ノ振興及宗徒策勵ノ爲メ管長ノ發スル告諭ヲ謂フ

第四條 達令ハ宗規教令ノ施行上必要ナル事項ニ付宗内一般又ハ其一部ニ對シ總務ノ發スル指示ヲ謂フ

第五條 布告ハ政府ノ法令ヲ移牒シ又ハ宗務上ノ必要ニ依リ宗規教令達令ニ屬スル以外ノ事項ニ付宗務所名ヲ以テ一般ニ公示スルモノヲ謂フ

第六條 宗憲宗規ノ改廢ハ教令ヲ以テ之ヲ發布ス

前項ノ教令ハ宗會ノ協賛ヲ經主務大臣ノ認可ヲ得タル旨ヲ記シ管長之ニ署名シ總務之ニ副署ス宗憲第十一條ニ依リ發スルモノハ其旨ヲ記載スヘシ

第七條 宗規施行上必要ナル規程發布ノ教令ハ管長之ニ署名シ總務之ニ副署ス

第八條 訓示及第六條第七條ニ依ル以外ノ教令ハ管長ノ署名ニ依リ之ヲ發布スルモノトス

第九條 豫算及決算ハ達令ノ式ニ依リ之ヲ發布ス

但此達令ニハ宗會ノ承認ヲ經管長ノ認可ヲ得タル旨ヲ記載スヘシ

第十條 教令ニ依ル規程ニ附屬スル細則ハ達令トシ總務ノ名ヲ以テ之ヲ發布シ施行スルモノトス

但教令トスルヲ要スル細則其他一般ニ公示セサル内規ハ此限ニアラス

第十一條 法令ハ總テ施行期日ヲ掲クルモノノ外ハ發布ノ日ヨリ起算シ二十日ヲ經テ之ヲ

施行ス

七二

第十二條 法令ハ宗憲宗規規程細則ノ順序ニ依ルヘシ宗憲ノ敷衍ヲ宗規、宗規ノ補充ヲ規程、規程ノ附屬ヲ細則又ハ内規トス

第十三條 法規中ノ文例ヲ左ノ通り定ム

一、本條ト頭ヲ並ヘ記シタルトキハ本條ヲ第一項トス

一、本條以外ニ一ノ數字ヲ以テ列記シタルトキハ其始ヲ第一項トス

一、本條以外ニ一二三ノ數字ヲ逐ヒ掲ケタルトキハ何號ト稱ス

第十四條 布達ハ其公文ヲ登載シタル印刷物若ハ謄本ヲ關係ノ各機關及宗務支所ニ配布スルヲ公式トス

但宗報又ハ之ニ準スヘキ誌上ニ布告シタルトキハ之ヲ公式ト見做ス

宗機顧問會規程

大正十五年一月十五日教令第二號發布、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

第一條 本規程ハ宗規宗務規則第二十九條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本會ハ顧問互選ニ依リ議長一名ヲ選定ス

第三條 執行長缺員ノ場合管長ハ顧問會ニ對シ有資格者中ニ就キ候補者選定方ヲ諮詢スルモノトス

但必要ノ場合ハ候補者人體ヲ指定シ諮詢スルコトアルヘシ

第四條 顧問會ノ決議ハ議長之ヲ奉答スルモノトス

第五條 本會ノ議事ハ宗會議事細則ヲ準用スルモノトス

宗規會議規則

大正拾五年五月拾五日告示第九號、昭和四年一月三拾一日教令第四拾一號修正

- 第一條 本則ハ宗憲第四章第三十六條ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 宗會ハ定期臨時ノ二種トス
- 第三條 定期宗會ハ毎年一回之ヲ開ク
臨時宗會ハ管長ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ開キ臨時必要ノ事項及之ニ伴フ豫算ヲ議
決ス
- 第四條 定期宗會ノ會期ハ十日間トシ臨時宗會ノ會期ハ其都度管長之ヲ定ム
但必要アル場合ハ教令ヲ以テ會期ヲ延長スルコトヲ得
- 第五條 宗會ノ開會ハ期日ヲ定メ三十日以前ニ召集令ヲ發スルモノトス
但緊急ヲ要スルトキハ此限リニアラス

第六條 宗會ノ停會ハ一會期ヲ通シテ五日ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 宗會解散ヲ命セラレタルトキハ管長ハ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散後五ヶ月以内ニ之ヲ召集スヘキモノトス 但此場合實行豫算ヲ附議ス

第八條 宗會ニ議長副議長各一名ヲ置キ議員ノ互選ニ依リ管長之ヲ任命ス其任期ハ議員ノ任期ニ依ル

議長ハ議事ヲ整理シ宗會ヲ代表ス

副議長ハ議長事故アルトキ其職務ヲ代理ス

議長副議長俱ニ事故アルトキハ議員ノ互選ヲ以テ臨時議長ヲ定ム

第九條 宗會ニ幹事一名書記若干名ヲ置ク

幹事ハ議長ノ命令ヲ受ケ事務ヲ處理シ書記ハ議長及幹事ノ指揮ニ依リ庶務ニ從事ス

第十條 宗會ハ議員定數二分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第十一條 宗會ノ議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所

ニ依ル

但特別ノ規定アルモノハ此限リニアラス

第十二條 宗會ノ議案ハ管長之ヲ提出ス

第十三條 議員ハ宗會ニ對シ議員三名以上ノ贊同ヲ得テ自ラ議案ヲ提出スルコトヲ得

但宗憲及總大本山寺法改廢ニ關スルモノハ此限リニアラス

第十四條 議員ハ宗會ニ對シ議員十名以上ノ贊同ヲ得テ宗憲及總大本山寺法ノ改廢ニ關スル建議案ヲ提出スルコトヲ得

第十五條 本宗教師及檀信徒ハ宗會ニ對シ議員ノ紹介ヲ得テ請願書ヲ提出スルコトヲ得

第十六條 議員ハ宗務所及總大本山ニ對シ必要ナル書類ノ閲覽ヲ求メ又ハ質問ヲナスコトヲ得

第十七條 宗會ハ議員ノ互選ヲ以テ委員ヲ設ケ議案ノ審査ヲ附託スルコトヲ得

第十八條 宗會ハ議員ニ對シ除名其他ノ懲罰ヲ行フコトヲ得

第十九條 宗會ノ決議ハ管長ノ認可ヲ經サレハ執行ノ効力ナキモノトス

第二十條 參事會ハ必要ニ應シ之ヲ開會ス會期ハ其都度之ヲ定メ七日以前ニ召集令ヲ發ス
ルモノトス

第二十一條 本則第八條乃至第十三條第十五條第十六條第十七條第十九條ノ規定ハ之ヲ參
事會ニ準用ス

第二十二條 宗會ハ議員中ヨリ參事會議員選舉ノ例ニヨリ會計監査員五名ヲ互選ス
會計監査員ノ任期ハ宗會議員ノ任期ニ依ル

第二十三條 會計監査員ハ毎年一回宗内各機關ニ對シ會計ノ監査ヲ行フモノトス

第二十四條 會計監査員ハ會計監査上ニ付意見アルトキハ直チニ管長ニ上申スルコトヲ得

第二十五條 本則施行ニ關シ必要ナル細則ハ宗會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

會議

- 宗規會議規則
- 宗會議事細則
- 參事會議事細則
- 宗規議員選舉規則
- 選舉取締規程

宗會議事細則

大正拾五年三月二拾七日制定、昭和二年拾一月二拾二日改正認可、昭和六年三月二拾日教令
第六拾號改正

第一章 總則

第一條 本則ハ宗規會議規則第二十五條ニヨリ之ヲ定ム

第二章 開會散會及廻會

第二條 會議ハ公開トス 但議長ノ意見又ハ宗務所委員若クハ議員三名以上ノ請求ニヨリ議會ノ賛成アルトキハ秘密會トス

第三條 會議ハ通常午前九時ニ始メ午後三時ニ終ル

第四條 日程ノ議事終リタルトキハ議長ハ議會ニ諮ハシテ散會ヲ宣告ス議事未タ終ラスシテ午後三時ニ到ルトキハ議長ハ延會ヲ宣告スルコトヲ得

第五條 議長ヨリ開議ノ宣告セサル間ハ何人モ議事ニ付キ發言スルコトヲ得ス

第六條 缺席者又ハ退席者ニヨリ議員定數ニ充タサルトキハ議長ハ延會又ハ散會ヲ宣告

ス

第三章 議事日程

第七條 議題ノ順序及開議ノ日時ハ議事日程ニ記載ス

第八條 議長ハ會議ノ終リニ次會ノ議事日程ヲ報告ス

第九條 議事日程ノ順序ハ宗務所ヨリ提出シタル議案ヲ先キニス

但議員ヨリ緊急動議ヲ提起シ三名以上ノ賛成アリタルトキ若クハ議長自ラ緊急事件ト認ムルトキハ宗務所委員ノ同意ヲ求メ其ノ同意ヲ得タル上ハ討論ヲ用ヰシテ議會ニ諮ヒ

日程ヲ變更スルユトヲ得

第十條 議事日程ニ指定シタル日ニ開議スル能ハス若クハ會議終局ニ至ラサルトキハ議

長ハ更ニ其日程ヲ定ム

第四章 発議及動議

第十一條 議案ハ總ヘテ宗務所ヨリ提出ス尤モ宗務所ハ何時タリトモ既ニ提出セル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第十二條 議員ヨリ議案ヲ提出セントスルトキハ其案ヲ具ヘ理由書ヲ付シ成規ノ賛成ヲ得テ議長ヘ差出スヘシ

第十三條 別ニ規定アルモノ、外動議ハ總ヘテ三名以上ノ賛成者ヲ待テ議題トナスモノト

ス

第五章 讀會

第十四條 第一讀會ハ議案ヲ各議員ニ配布シタル後一日以上ヲ隔テ開クヘシ但場合ニ依リ議會ニ諮詢直ニ開クコトヲ得

第十五條 第一讀會ニ於テ議案朗讀後宗務所委員又ハ發議者ハ其趣旨ヲ辯明シ議員ハ其案ニ對シ疑議ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 第一讀會ニ於テ討論ノ後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヤヲ決スヘシ若シ開クヘカラスト決シタルトキハ其議案ハ廢棄セラレタルモノトス若シ委員附託トナリタルトキハ其報告ヲ待テ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ決スヘシ

第十七條 第一讀會ニ於テ議員ハ第二三讀會ヲ省略シ可決確定ノ動議ヲ提出スルコトヲ得
第十八條 第二讀會ハ第一讀會終リタル後少クトモ一日以上ヲ隔テ開クヘシ
但議長ハ場合ニ依リ議會ニ諮ヒ直ニ開クコトアルヘシ

第十九條 第二讀會ハ議案ヲ逐條ニ朗讀シ決議ス

但議長ノ意見ニ依リ其ノ順序ヲ變更シ又ハ數條ヲ連ネ若クハ一條ヲ分割シテ決議ニ付スルコトヲ得

第二十條 第二讀會ハ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ提出スルコトヲ得

第二十一條 委員ノ報告ニ關スル修正ハ賛成者ヲ待タスシテ議題トス

第二十二條 第二讀會ノ終ニ於テ議會ハ議案ヲ委員ニ附託シ修正決議ノ條項及文句ノ整理ヲナサシムルコトヲ得

第二十三條 第三讀會ハ第二讀會後一日以上ヲ隔テ開クヘシ

但議長ハ場合ニ依リ議會ニ諮ヒ直ニ開キ若クハ讀會省略スルコトヲ得

第二十四條 第三讀會ハ議案全體ノ可否ヲ決ス

第二十五條 第三讀會ハ文字ヲ更正スル外修正ノ動議ヲ爲スコトヲ得ス

但議案中互ニ牴觸シ又ハ宗憲宗規ニ牴觸スル事項ヲ發見シタルトキハ此限ニアラス

第六章 討論

第二十六條 議題ニ對シ發言セント欲スル者ハ豫メ其氏名及反對又ハ賛成ノ旨ヲ記シテ議長ニ通告スルコトヲ得

第二十七條 議長ハ通告ノ順序ニ依リ討論ヲ始ム但反對者ヲシテ最初發言セシメ成ルヘク
交互ニ指名シ發言セシム 但其指名ニ應セサル者ハ通告ノ効ヲ失ス

第二十八條 通告ヲ爲サル議員ハ通告ヲ爲シタル議員總ヘテノ發言ヲ終ルニアラサレハ
發言ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十九條 通告ヲ爲サスシテ發言セントスルモノハ起立シテ議長ト呼ヒ自己ノ番號ヲ告
ケ議長ノ許可ヲ待テ發言スヘシ

第三十條 二人以上同時ニ起立シテ發言ヲ求ムルトキハ議長ノ先起立者ト認メ指定シタ
ル者ノ外發言スルコトヲ得ス

第三十一條 前會ニ於テ發言ヲ終ラサル議員ハ次會ノ始メニ於テ更ニ前會ノ發言ヲ繼續ス
ルコトヲ得

第三十二條 討論ハ議題外ニ涉ルコトヲ得ス

第三十三條 宗務所委員又ハ各委員及議案提出者若クハ動議者ニシテ其趣旨ヲ辯明スル外

議員ハ同一ノ議題ニ三回以上發言スルコトヲ得ス

但質議應答又ハ注意ノ喚起ハ此限ニアラス

第三十四條 會議ニ於テ意見書又ハ理由書ヲ朗讀スルコトヲ得ス

但報告ノ爲メ必要ナル文書ヲ朗讀スルハ此限ニアラス

第三十五條 議長副議長共ニ事故アルトキハ議員ノ互選ヲ以テ臨時議長ヲ定ムルモノトス

第三十六條 發言未タ盡キサルモ議員ハ討論終結ノ動議ヲ提出スルコトヲ得此場合ニ於テ
ハ議長ハ議會ニ諮ヒ討論ヲ用ヰシテ決ス

但議長ニ於テ發言既ニ盡キタリト認ムルトキハ直ニ終結ヲ宣告ス

第三十七條 議事細則ノ疑議ハ議長之ヲ決ス 但議會ニ諮ヒ決スルコトアルヘシ

第七章 修 正

第三十八條 議案ニ對スル修正ハ其案ヲ具ヘテ議長ニ提出スヘシ

第三十九條 同一ノ議題ニ付數個ノ修正案提出アリタルトキハ議長ハ其ノ表決ノ順序ヲ定ム

第四十條 既ニ成立シタル修正并動議ハ議會ノ許サル、限り撤回スルコトヲ得ス
但一議員ノ撤回シタル動議モ他ノ議員ニシテ定規ノ賛成者ヲ得テ之ヲ繼續スルハ妨ケナシ

第四十一條 修正案總ヘテ否決セシトキハ原案ニツキ決ヲ取ルヘシ

第八章 表 決

第四十二條 表決ハ宗規會議規則第十一條ノ規定ニ依ル

第四十三條 表決ノ際議場ニ現在セサル議員ハ其數ニ加ハルコトヲ得ス

第四十四條 議長表決ヲ取ラントスルトキハ其ノ議題ヲ宣告ス宣告ノ後ハ何人モ其ノ議題ニ就キ發言スルコトヲ得ス

第四十五條 議長表決ヲ取ラントスルトキハ先ツ其ノ議題ヲ可トスル者ヲ起立セシメテ其ノ可否ノ結果ヲ宣告ス結果疑ハシト認ムルトキ又ハ議員ヨリ議長ノ宣告ニ異議ヲ申立て三名以上ノ賛成者アルトキハ氏名點呼又ハ無記名投票ヲナサシメ之ヲ決ス

第四十六條 表決ノ結果ハ議長之ヲ宣告ス

第四十七條 議員ハ自己ノ表決ノ更正ヲ求ムルコトヲ得ス

第九章 質 問

第四十八條 宗務所ニ對シ質問ヲ要スルトキハ口頭又ハ書面ヲ以テスヘシ

第十章 答辭、建議及上申

第四十九條 管長ノ告諭ニ對シ答辭ノ禮ヲ表セントスルトキ又ハ議會ヨリ建議書ヲ提出セントスルトキ議長ハ謁見ヲ乞ヒ自ラ奉呈スヘシ

第五十條 議長ハ宗務所ヨリ提出ノ議案ニシテ可決ノモノハ其旨否決ノモノハ更ニ審議

第五十一條 議員ノ提出セシ議案エシテ可決ノモノハ認可セラレンコト上申ス

第十一章 請願

第五十二條 宗規會議規則第十五條ニヨル請願書紹介議員ハ其表紙ニ紹介議員某ト書スヘシ
第五十三條 請願書ハ請願委員會ニ付シ受理ノ順序ニ依リ之ヲ審查シ其議スヘキモノト定メタルトキハ議會ニ付シ参考トシテ採擇スヘキモノハ宗務所又ハ他ノ委員會ニ廻付シ其必要ヲ認メサルモノハ議長ヨリ紹介議員ヲ經テ却下ス

第五十四條 請願委員ハ審査ノ結果ニ隨ヒ左ノ區別ニ依リ大要ヲ議會ニ報告ス

一、議會ニ付スヘキモノ

一、参考トシテ廻付スヘキモノ

一、却下スヘキモノ

第十二章 委員

第五十五條 宗規會議規則第十七條ノ委員ヲ請願委員特別委員豫算委員ノ三種トス

請願委員ハ五名、豫算委員ハ七名トシ開會ノ始メニ互選又ハ議長ノ指名ヲ以テ之ヲ定メ
特別委員ハ其都度員數ヲ定メ一事件調査ノ爲メ互選又ハ指命ニ依リ之ヲ定ム

但各委員互ニ兼ヌルコトヲ得

第五十六條 委員會ハ議會開會中ニ開クコトヲ得ス
但議會ノ許可ヲ得タルトキハ此限リニアラス

第五十七條 委員ハ同一事件ニ對シ幾回タリトモ發言スルコトヲ得

第五十八條 委員會ハ過半數ニヨリ開會シ其過半數ヲ以テ可否ヲ決ス可否同數ナルトキハ
委員長之ヲ決ス

委員長ハ委員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 宗務所委員及議長ハ何時タリトモ出席シテ意見ヲ陳フルコトヲ得ルモノ可否ノ數ニ與カラス

第六十條 委員會結果ノ報告書ハ委員長ヨリ議長へ提出シ議長ハ委員長ヲシテ之レヲ議場ニ報告セシム

第六十一條 委員會ハ議事錄ヲ備ヘ出席委員ノ氏名并ニ表決ノ數、決議ノ要領其他重要ノ事件ヲ記載シ委員長及委員ノ署名ヲ爲シ保存スヘシ

第六十二條 委員會ノ議事ハ傍聴ヲ許サス

第十三章 缺席及請暇

第六十三條 議員事故ノ爲メ二日以上出席スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ請暇書ヲ議長ヘ差出シ議會ノ許可ヲ受クヘシ

第六十四條 議員事故ノ爲メ當日出席スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ具ヘ缺席届ヲ議長ヘ差出スヘシ

第十四章 秩 序

第六十五條 議員ハ黒衣五條ヲ被着スヘシ

第六十六條 議員ハ参考書ノ外他ノ書籍類ヲ朗讀シ喧噪スルコトヲ得ス

第六十七條 每日開會ノトキ讀經法樂ヲ行フ

第十五章 懲 誠

第六十八條 議會ハ議員ヲ懲誠スル權ヲ有ス

懲誠ハ左ノ四種トス

一、譴 責 公開シタル議場ニ於テ譴責ス

二、謝 辞 公開シタル議場ニ於テ謝辭ヲ陳ヘシム

三、出席停止 一日以上十日以内出席ヲ停止ス

四、除 名 議員ノ權利ヲ喪失ス

第六十九條 謹責ハ左ノ項ニ據ル

一、議場ニ於テ議員ノ職分上過誤アル者

一、無届缺席ノ者

第七十條 謝辭ハ左ノ項ニ據ル

一、他人ニ對シ誹毀侮辱ヲナシタル者

第七十一條 出席停止ハ左ノ項ニ據ル

一、議會ノ秩序ヲ紊亂セル者

第七十二條 除名ハ左ノ項ニ據ル

一、管長ニ對シ不敬ノ言動アル者

第七十三條 除名ハ左ノ項ニ據ル

第七十三條 管長ハ議場ニ於テ懲誠事犯アリト認メタルトキハ直ニ議事ヲ中止シテ委員ニ

附シ議會ノ決議ヲ得テ之ヲ宣告ス議員ハ五名以上ノ同意ヲ以テ懲誠ノ動議ヲナスコトヲ
得

但事犯アリシ日ヨリ二日以内トス

第七十四條 除名ニ係ル決議ハ出席議員三分ニ已上ヲ以テ之ヲ決シ管長ニ上申ス

第七十五條 懲誠事犯ノ會議ハ秘密會トス

第七十六條 懲誠ノ查問ニ付セラレタル議員ハ委員會ニ對シ辯疏スルコトヲ得

第七十七條 謝辭ヲ表セシメントスルトキハ委員ハ豫メ謝辭ノ要領ヲ記シ報告ト共ニ議長

ニ提出スヘシ

第七十八條 懲誠事犯ニ依リ委員調査ニ付セラレタル者ハ其處分ノ決スル迄議長ハ出席ヲ
停止スルコトアルヘシ

第十六章 傍 聽

第七十九條 傍聽人ハ傍聽人名簿ヘ住所姓名ヲ記シ傍聽證ヲ受クヘシ

第八十條 傍聽人ハ左ノ事項ヲ守ルヘシ

一、僧侶ハ規定ノ服裝ヲ被着スヘシ

二、居士ハ洋服又ハ羽織若クハ袴ヲ被着シ帽子又ハ外套ヲ着スヘカラス

三、飲食又ハ喫煙スヘカラス

四、議員ノ言論ニ可否ヲ表シ又ハ喧擾シテ議事ヲ妨クヘカラス

五、何等ノ理由アルモ議場ニ入ルヘカラス

六、幹事ノ指揮ニ背クヘカラス

第十七章 議事錄

第八十一條 議事錄ハ左ノ事項ヲ記載ス

一、管長告諭

二、議會成立及開會閉會ニ關スル事項及年月日

三、開議延會中止散會ノ日時

四、宗務所委員出席者ノ氏名

五、議會缺席者ノ氏名

六、議長及委員報告ノ件

七、會議ニ付シタル議案ノ題名

八、議題トナリタル動議及動議者ノ氏名

九、表決及可否ノ數ヲ計算シタル數

十、質問討議并ニ採決ノ要點

第八十二條 議事錄ハ議長又ハ副議長若クハ臨時議長并ニ議員中議長ノ指命ニ依ル署名議員二名以上ノ署名捺印ヲ要ス

附 則

第八十三條 參事會ノ議事細則及懲誡法ハ別ニ規定アルモノ、外本則ヲ準用ス

參事會議事細則

大正十五年六月二十五日告示第十號發布、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

第一條 本則ハ宗規會議規則第二十五條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 本會ハ參事會員ノ互選ニ依リ會長一名ヲ選定ス
但會長ハ會議毎ニ選定スルモノトス

第三條 本會ハ會計ノ監査豫算ノ審查其他必要ノ事項ヲ議ス

第四條 本會ノ議事ハ宗會議事細則ヲ準用ス

附 則

第五條 本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

以上

宗規議員選舉規則

九八

大正十五年五月十五日告示第九號、昭和四年一月三十一日教令第四十一號、昭和四年二月二十七日教令第四十二號、昭和四年十一月二十日教令第四十八號、昭和六年二月十八日教令第五十七號修正

第一條 本則ハ宗憲第四章第三十六條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 特選ノ宗會議員ハ四名トシ金剛峯寺二名仁和寺大覺寺各一名宛ヲ座主門跡ニ於テ公選議員選舉有資格者中ヨリ特選シ管長之ヲ任命ス其任期ハ公選議員ノ任期ニ依ル

第三條 公選ノ宗會議員ハ二十五名トシ左ノ區表ニ依リ各區ヨリ之ヲ選出セシメ其任期ハ當選就任ノ日ヨリ定期宗會三度目ノ宗會閉會後百日ヲ以テ限リトシ補缺ニ依リ議員タルモノハ前任者ノ殘任期トス

選舉區

選　　舉　　區　　域

選出議員數

第一區

{神奈川縣、埼玉縣、宮城縣、茨城縣、群馬縣
栃木縣、千葉縣、東京府、山梨縣

三人

第二區

{新瀉縣、富山縣、石川縣、福井縣、長野縣
岐阜縣、靜岡縣、愛知縣、秋田縣、青森縣

二人

第三區

京都府、三重縣、滋賀縣、但馬國

二人

第四區

大阪府、兵庫縣ノ内攝津國、丹波國

二人

第五區

播磨國、淡路國、

二人

第六區

奈良縣、和歌山縣(高野山共)
岡山縣

三人

第七區

德島縣、高知縣、

二人

第九區

廣島縣、山口縣、鳥取縣、島根縣

二人

第十區

香川縣、愛媛縣、九州一圓

三人

第十一區

北海道、樺太、朝鮮、滿州、臺灣

一人

第四條 選舉人ハ區内寺院正住職教會所主任ニ限り被選舉人ハ區内寺院正住職及教會所主

任ニシテ廿五歳以上ノ者ニ限ル

第五條 議員ヲ辭シタル者及議員ノ當選ヲ辭シタル者ハ其補缺選舉ニ限り被選人タルコトヲ得サルモノトス

總大本山住職ハ選被選舉人ニ加ヘサルモノトス

第六條 左項ノ一ニ該當スルモノハ選被選舉人ノ資格ヲ有セス

一、懲誠ニ依リ懺悔清行中ノ者

一、名簿確定後懺悔以上ノ懲誠處分ヲ受ケタル者

二、降級以上ノ處分ヲ受ケ其特免ヲ得サル者

一、選舉事犯ニ依リ懲誠ヲ受ケ満二ヶ年ヲ經過セサル者

一、宗費賦課禮錄徵收規則第十一條ニ依ル宗費怠納者

第七條 選舉ヲ行フ時ハ教令ヲ以テ選舉期日ヲ定メ其期日前三十五日ニ發布スルモノトス

第八條 選被選人名簿ハ毎年二月二十五日現在ニ依リ作製シ四月十日ヲ以テ確定ス

名簿確定後一箇年間ニ於ケル選舉ハ總テ之ニ依リ執行テルモノトス

第九條 宗務所ハ毎年二月二十五日現在ニ依リ選舉有資格者ヲ調査シテ選被選人名簿ヲ調製シ其ノ寫ヲ三月五日ニ宗内ニ告示スヘシ

關係人ニシテ之ニ異議アル者ハ三月二十五日迄ニ其ノ改訂ヲ申出テ宗務所ハ四月十日迄ニ修正スヘキモノハ之ヲ修正シ直ニ其旨ヲ宗内ニ告示スヘシ

名簿作製期日ハ止ムナキ事故アル場合ニ限リ資格調査日ノ外ハ其期日ヲ變更スルコトヲ得確定名簿ニ加ヘラレタル者ト雖モ其資格ナキ者及其資格ヲ喪失シタル者ハ選被選權ナキモノトス

第十條 確定名簿ハ後ニ至リ異議申出テアルモ加除ヲ許サス其名簿ニ漏レタルモノハ事由ノ如何ニ拘ハラス選被選權ナキモノトス

第十一條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票用紙及封筒ハ選舉期日ノ前二十日ニ於テ宗務所ヨリ之ヲ配布スルモノトス

投票及封筒ノ書式ヲ定ムルコト左ノ如シ

一〇二

第 號	宗務 所印	右宗會議員ニ選舉ス	姓 名
		何府何市 縣郡何村	
		第何區	
		何院住職	
		姓名印	
		何府何市 縣郡何村	第何區
		何院住職	宗會議員投 在中
		姓名印	

第十二條 投票ハ各自封緘ノ上選舉期日ノ前日午後六時迄ニ宗務所ニ差出スヘシ
但前項期限ヲ過キ到着シタルモノハ無効トス

第十三條 投票ハ到着ノ順序ヲ以テ受付簿ニ記載シ直ニ投票箱ニ收メ宗務所之ヲ嚴護スヘ

シ

第十四條 開票ハ宗務所ニ於テ選舉期日ニ開始シ選舉長一名立會人三名以上立會ノ上之ヲ
執行ス

第十五條 選舉長ハ庶務部長ヲ以テ之ニ充テ立會人ハ本宗寺院正住職中ヨリ選舉長之ヲ指
名スルモノトス

但立會人事故アルトキハ臨時補缺立會人ヲ指名スヘシ

第十六條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

一、成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

一、選舉權ナキ者ノ爲シタル投票

一、投票書式ニ定ムル事項ヲ記載セサルモノ又ハ記載スルモ不明瞭ニシヨ認知シカタ

キモノ

一、届出ナキ候補者ニ投票シタルモノ

議員選舉規則

一〇三

一、選舉人ノ捺印ナキモノ又ハ宗務所備付ノ印鑑ニ符合セサル印章ヲ用ヒタルモノ
一、資格ナキ被選舉人ノ姓名ヲ記載シタルモノ
一、二名以上ヲ列記シタルモノ

第十七條 投票ハ一人一票單記トス

第十八條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決ス
第十九條 宗會議員候補者タラントスル者ハ供託金壹百圓及其供託金ハ第二十一條ニ該當スル場合ニ於テハ宗務所ノ臨時歲入ニ編入セラル、事ヲ承認スル旨ノ書面ヲ添付セル立候補届ヲ宗務所ニ提出スヘシ

前項ノ届出ハ推薦者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得 但推薦者ハ選舉有資格者ニ限ル

第二十條 立候補届ハ選舉期日前二十二日ノ午後六時迄ニ宗務所ニ到着セサレハ其効ナキモノトス

前項ノ期限ヲ過キタルトキハ總務ハ直ニ候補者氏名ヲ區内ニ告示スヘシ候補者死亡シ又

ハ其立候補ヲ辭シタルトキ亦同シ

第二十一條 供託金ハ其候補者ノ得票其ノ區内ノ投票總數ヲ届出候補者數ヲ以テ除シタル數ノ四分ノ一ニ達セサルトキハ宗務所ニ販入スルモノトス

但届出期限後ニ至リ候補者タルコトヲ辭シタルトキ亦同シ

第二十二條 第二十條ノ規定ニ依ル立候補届出期限ヲ過キ立候補者數其區内選出議員數ト同一若ハ其以内ナルトキハ別ニ投票ヲ用ヒス選舉會ニ於テ之ヲ當選人トスルモノトス

第二十三條 有効投票ノ多數ヲ得タルモノヲ當選人トス二人以上同シキトキハ教師等級ノ高キモノヲ取リ教師等級同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ選舉長之ヲ定ム

第二十四條 當選人ハ其區内ノ投票總數ヲ選舉ノ當時ニ於テ選出スヘキ議員數ヲ以テ除シタル數ノ三分ノ一以上ノ得票ヲ要ス次点者亦同シ

第二十五條 一區二名以上ノ議員選出ノ場合ハ高點者ヨリ順次其定員ノ當選者ヲ採リ其次

位ノ法定得票者次點者トス

但次點者ノ順位ハ第二十三條ヲ準用ス

第二十六條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ之ヲ宗務所ニ報告シ宗務所ハ直ニ當選人ニ通知スヘシ

第二十七條 當選人前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其諾否ヲ宗務所ニ届出ツヘシ
前項ノ通知ヲ發シタルトキヨリ二十日以内ニ承諾書ヲ差出サ、ルトキハ當選ヲ辭シタルモノト見做ス

第二十八條 當選人ニシテ其當選ヲ辭シタルトキハ次點者ヲ當選人トシ第二十六條第二十七條ノ手續ヲ爲スヘシ

當選人無キトキ又ハ當選人其當選ヲ辭シタルタメ其區ノ議員定數ヲ得サルトキハ其不足ノ員數ニ限リ再選舉ヲ行フモノトス

但次點者ノ有効期間ハ滿一ヶ年トシ其間ニ於テ議員缺員ヲ生シタルトキハ次點者ノ順位

ニ依リ之ヲ補充スルモノトス

第二十九條 當選人又ハ次點者ニシテ選舉事犯ニ依リ懲誠ヲ受ケタルモノハ該當選ヲ無効トス

第三十條 當選人確定シタルトキハ管長ハ當選證ヲ交付シ且之ヲ告示スヘシ

第三十一條 選舉ヲ行ヒタルトキ選舉長ハ選舉錄ヲ製シ立會人連署ノ上投票ト共ニ宗務所ニ提出シ同所ニ於テ滿一ヶ年間之ヲ保存スヘキモノトス

第三十二條 選舉錄ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一、選舉會ノ顛末

一、有權者總數

一、受理投票總數

一、無効投票總數

一、有効投票總數

一、其得點表

一、當選者氏名

一、次點者氏名

第三十三條 參事會議員ハ宗會議員ノ互選投票ヲ以テ之ヲ定ム其任期ハ宗會議員ノ任期ニ依ル

第三十四條 參事會議員ノ選舉ヲ行フトキハ教令ヲ以テ選舉期日ヲ定メ其期日前二十日ニ投票用紙ヲ配布スルモノトス

第三十五條 參事會議員選舉ノ際ハ法定得票數ヲ定メス高點人ヨリ順次定員ノ當選人ヲ採リ其次位得票人ヨリ順次三名ヲ補缺員トシ參事會議員ニ缺員アリタルトキ得票ノ順位ニ依リ之ヲ以テ補充スルモノトス

但得票人ナキ爲所要ノ員數ヲ得ラレサルトキハ其不足員數ヲ限り再選舉ヲ行フモノトス

第三十六條 參事會議員ノ選舉ハ連記投票トス

第三十七條 本則第十一條乃至第十六條第十八條第二十三條第二十六條第二十七條第二十九條乃至第三十二條ハ之ヲ參事會議員及補缺員ノ選舉ニ準用ス

第三十八條 宗規中本則ノ準用規定アルモノニ付テハ第十九條乃至第二十二條ノ規定ハ除外サル、モノトス

第三十九條 本則施行ニ關シ必要ナル細則ハ教令ヲ以テ之ヲ定ム

補　　則

第四十條 本法改正規定ハ昭和六年二月十日ヨリ之ヲ施行ス

但昭和六年三月施行ノ公選議員選舉ニ限リ改正前ノ規定ヲ適用ス

選舉取締規程

一一〇

昭和六年三月二十日教令第六十號制定

第一條 本規程ハ管長門跡宗會議員宗機顧問宗務支所長同副所長同代議員等ノ宗規ニ依ル選舉ニ對シ之ヲ適用ス

第二條 左項ノ一ニ該當スル行爲アリタル者ハ停權又ハ降級ニ處ス

一、選舉ニ關シ特殊ノ利益ヲ提供シテ選舉人ヲ誘導シ又ハ誘導ニ應シタル者
二、選舉事務ニ關係アル職員ニシテ選舉ノ秘密ヲ漏洩シ候補者ニ便利ヲ與ヘ或ハ他ノ候補者ノ選舉ヲ妨害シタル者

一、投票ヲ偽造變造シ之ヲ行使シタル者

一、選舉ニ關シ威壓脅迫ヲ加ヘ又ハ不正ノ手段ヲ以テ投票ヲ爲サシメ若ハ選舉ノ行使ヲ妨害シタル者

一、選舉長及ヒ立會人ニ暴行ヲ加ヘ且暴力ヲ以テ開票ヲ妨ケタル者

一、當選ヲ妨クノ目的ヲ以テ新聞雜誌其ノ他文書ニ依リ候補者ヲ侮辱シタル者

第三條 左項ノ一ニ該當スル行爲アリタル者ハ懲悔ニ處ス

一、利益ヲ以テ選舉人ヲ誘導セントシタル者

一、金錢物品ノ授與ヲ選舉人ヨリ候補者又ハ其關係人ニ向ツテ請求シタル者

一、選舉權ナキ者ニシテ選舉運動ヲ爲シタル者

一、選舉人ニ面接シ投票ヲ依頼シタル者

第四條 候補者ニシテ第二條第三條ノ事犯ニ依リ懲誠ニ處セラレタルトキハ其當選ヲ無効トス

第五條 選舉人ニシテ選舉事犯ニ依リ懲誠ニ處セラレタル者ハ二ヶ年間選被選舉權ヲ停止ス

第六條 本規程ニ依ル懲誠ニ付加重輕減ハ宗規タル懲誠規則ノ定ムル處ニ依ルモノトス

教 育

宗規 教育規則

留學及貸費規程

補助學校認定取扱規程

高野山大學々則

高野山中學々則

高野山修道院規定

三密學園制規

尼衆學園規則

高野山勸學財團寄附行爲

高野山勸學財團執務規程

高野山大學會計規程

大學完成委員會規程

社會事業取扱規程

社會事業取扱細則

古義真言宗社會事業協會々則

宗規教育規則

大正十五年十二月六日教令第二十二號修正

- 第一條 本則ハ宗憲第五章第四十條ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 高野山大學ハ財團法人之ヲ設立經營シ専門部ヲ附設ス
高野山中學ハ自他宗ノ教義並ニ須要ナル普通教育ヲ爲ス所トス
- 第三條 各學校ニ學長ヲ置キ其學校ヲ主宰セシム
- 第四條 高野山大學學長ハ教授會ノ推薦ニ依リ財團ニ於テ該財團評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ任命ス此場合ハ管長ノ承認ヲ得ルヲ要ス
- 第五條 高野山大學學部長以下ノ教職員ノ任命ハ財團ニ於テ管長ノ承認ヲ經テ之ヲ行フ
- 第六條 高野山中學學長ハ總務ノ推薦ニ依リ管長之ヲ任命シ其他ノ教職員ハ學長ノ具申ニ依リ管長之ヲ任命ス

- 第七條 高野山中學第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左記各項ノ一一該當スルヲ要ス
 一、義務教育ヲ修了シ更ニ通常法式ニ用フル經典ヲ修得シタル者
 二、試験ノ上同等以上ノ學力アリト認メタル者
 三、各宗派ノ徒弟及本宗檀信徒ノ子弟ニシテ入學試験ニ合格シタル者
- 第八條 高野山中學ノ修學年限ヲ五箇年トス
- 第九條 各教育機關ノ經費ハ宗費及言眞宗高野山勸學財團ノ果實ヲ以テ之ヲ支辨ス
- 第十條 財團法人ニ係ルモノノ外學校ノ會計ハ宗務所會計規則ヲ準用ス
- 第十一條 前條ノ經費支出ハ毎月ノ決算書ヲ翌月十五日迄ニ作製シ宗務所ヘ報告スヘキモノトス
- 第十二條 高野山大學以外ノ各學校ノ學則制定並ニ改正ハ當該學長之ヲ定メ管長ノ認可ヲ經テ施行スルモノトス
- 第十三條 事相講傳所並ニ事相講傳所財團ハ本宗及眞言宗各派總大本山共同シテ設立ス

留學及貸費規程

昭和六年二月二十日教令第五十八號制定、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

第一章 総則

- 第一條 本規程ハ宗規教育規則第十七條ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 本宗ノ人材養成ノ爲メ留學生及貸費生ヲ選定シ學資ノ補助又ハ貸費ヲ爲スモノトス

第三條 留學生及貸費生ノ選定及年限並ニ補助又ハ貸費ノ金額ハ本規程ニ基キ詮衡會ノ協議ヲ經テ總務ニ於テ之ヲ決定スルモノトス

第二章 留學生

第四條 留學生ヲ左ノ三種トス

一、海外留學 豫メ期限及學科ヲ定メ海外特定ノ地ニ於テ駐在研究スル者
一、海外視察 豫メ目的科目ヲ定メ短期間海外各地ニ亘リ視察研究スル者
一、内地留學 豫メ期限學科ヲ定メ國內特定ノ地ニ於テ駐在研究スル者

第五條 留學生ハ本宗教師中左項中ノ一ノ資格ヲ有スル者ノ内ヨリ之ヲ選定ス

一、宗立大中學教職員及教職員タリシ者

一、宗立其他ノ大學卒業及之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者

一、宗内機關ノ主事以上ノ職員及其職ニアリシ者

一、學階又ハ教階ヲ有スル者

第六條 留學生ハ品行方正身體強健且ツ志操堅實才能優秀ニシテ將來一宗ノ依止師タル素質ヲ有スルモノタルヲ要ス

第七條 留學生ノ研究科目ハ本宗々學教育、傳道、社會事業、宗教制度、等ニ於テ宗益上必要ト認ムルモノタルヲ要ス

第八條 留學生ノ研究期間ハ左ノ範圍内ニ於テ之ヲ許可スルモノトス
但必要ノ場合ハ詮衡會ノ協議ヲ經テ之ヲ延長又ハ短縮スルコトヲ得

一、海外留學ハ三ヶ年以内
一、内地留學ハ五ヶ年以内

第九條 留學生ニ對シ其期間中左ノ標準ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ支給ス
但實際支給及停止ノ場合ハ便宜月割ヲ以テ計算スルコトヲ得

一、海外留學ハ一ヶ年五千圓以内

一、海外視察ハ一ヶ年六千圓以内

一、内地留學ハ一ヶ年壹千圓以内

第十條 現ニ大中學教職員及宗内機關ノ職員中海外留學ヲ命セラレタルトキ其ノ家族アルモノハ應分ノ家族扶助料ヲ補給スルコトアルヘシ

第十一條 留學中ニ於テ死亡又ハ停止ヲ命シタル場合ハ其ノ後ノ補助金ハ之ヲ支給セサルモノトス

但死亡又ハ第十四條第五項ニ依ル停止ノ者ニ限リ三ヶ月分以内ニ於ケ特別支給ヲ爲ストアルヘシ

第十二條 留學生其期間ニ於テ疾病其他ノ事故ニ依リ一時休學ヲ要スルトキハ一ヶ年以内ヲ限リ之ヲ許可スルコトヲ得

第十三條 休學ハ豫定ノ留學期間ニ算入セサルト共ニ其期間ノ補助金ハ之ヲ支給セサルモノトス

ノトス

但事情ニ依リ其期間ニ對スル補助支給額ノ三分ノ一以内ニ於テ特別支給ヲ爲スコトアルヘシ

第十四條 留學中左ノ事項ノ一ニ觸レタルトキハ停止ヲ命スルモノトス

一、品行不良ニシテ宗旨ノ體面ヲ傷ツクルモノ

一、宗憲宗規ニ違背スル言動アルモノ

一、國法ニ觸レテ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルモノ

一、學業ニ倦怠ヲ生シ所期ノ目的ニ副ハサルモノ

一、疾病又ハ事故ニ依リ休學一ヶ年以上ニ亘ルモノ

第十五條 留學生ハ當初所定ノ研究科目及駐在地ヲ變更スルコトヲ得ス

但不得止理由ニ依リ宗務所ノ許可ヲ得タル者ハ此限りニアラス

第十六條 留學生ハ其期間中毎年三月末日マテ研究過程ヲ報告スルモノトシ期間滿了後一ヶ年以内ニ其研究科目ニ付論文ヲ作製シ之ヲ宗務所ニ提出スヘキモノトス

但留學生中視察ニ限り報告書ヲ以テ論文ニ代フルコトヲ得

第十七條 留學生ハ其提出シタル論文ヲ宗務所ニ於テ發表公刊スルノ必要ヲ認メタルトキハ之ヲ拒否スルコトヲ得ス

第十八條 留學生ハ成業ノ後宗立大中學教授其他宗内機關ノ職員ニ任用スル必要アルトキハ之ヲ應諾スルノ義務アルモノトス

但補助金ノ返還又ハ五ヶ年以上本條ノ職員ニ從事シタルモノハ其義務ヲ免除ス

第十九條 留學生ハ留學期間中及期間滿了後十ヶ年間ハ轉住轉居ノ際ハ必ラス其旨ヲ報告スルモノトシ他ニ就職ノ場合ハ豫メ宗務所ノ承認ヲ經ルモノトス

第二十條 留學生ハ期間滿了後十ヶ年間左ノ場合ニ於テ補助金（家族扶助料ヲ含ム）ヲ辨償セシメ保証人ハ連帶責任ヲ負フモノトス

一、僧籍ヲ脫シ又ハ一宗擴斥處分ニ處セラレタルモノ

一、他宗派ニ轉籍シタルモノ

一、第十四條一、二、三、四項ニ依リ停止ヲ命シタルモノ

一、本規程ニ違背スルモノ

第二十一條 留學生タラントスル者ハ願書ニ研究目的ノ科目ヲ明記シ保証人二名以上ノ連署ヲ以テ履歷書契約書体格検査等ヲ添付シ宗務支所ヲ經テ之ヲ本所ニ提出スヘシ

第二十二條 本規程ニ指定スル海外ハ滿州及帝國ノ統治權ニ屬スル領土以外ヲ謂フ

第三章 貸 費 生

第二十三條 貸費生ハ本宗ニ僧籍ヲ有シ品行方正意志堅固身體健全ニシテ左ノ各項ノ一二該當シ學資ニ乏シキ者ニ對シ申請ニ依リ之ヲ選定ス

一、優秀ノ成績ヲ以テ宗立中學ヲ卒業シ宗立大學及其他高等學校ニ入學スル者

一、前項ト同一ノ資格アリト認メ且ツ宗立大學其他高等ノ學校ニ入學スル者

一、既ニ高等ノ學校ニ在學中ニシテ學業ノ成績優良ナル者

第二十四條 貸費期間ハ當該學校卒業迄トス

但豫科本科ノ區別アル場合ハ適宜其期間ヲ限定シ三ヶ年以内ニ於テ之ヲ定メ繼續希望ノモノハ證議ノ上之ヲ許可スヘシ

第二十五條 貸費ハ一名一ヶ年六百圓以内トス

第二十六條 貸費生ハ貸費ノ方針決定ノ後モ必要ノ場合ハ宗務所ニ於テ更ニ人物試験ヲ爲スモノトス

第二十七條 貸費生ハ貸費ヲ申請シタル後志望ノ學校ニ入學セサルモノハ其ノ許可ヲ取消スヘシ

第二十八條 貸費生ハ申請當初ノ學校又ハ學科ヲ變更スルコトヲ得ス

但保証人連署ヲ以テ出願シ宗務所ノ許可ヲ得タルモノハ此限りニアラス

第二十九條 貸費生ハ卒業後一ヶ年經過ノ翌月ヨリ貸費ヲ受ケタル月數ノ二倍ノ期限内ニ

貸費金額ヲ月賦ヲ以テ返納スヘキモノトス

但期限内ト雖モ一時若ハ數回ニ返納スルコトヲ得

第三十條 貸費生ハ左記事項ヲ届出ツルノ義務アルモノトス

一、在學中ノ及落一ヶ月以上ノ病氣欠席休學退學轉居等

一、卒業後ノ義務修了マテ住職轉住轉居就職等

第三十一條 貸費生中左項ノ一二該當スルモノハ貸費ヲ停止ス

一、三ヶ月以上休學スル者

一、疾病其他不得止事故ナキニ落第シタル者

一、怠惰放逸其他ノ事由ニヨリ貸費生ノ資格ナシト認メタル者

一、當該學校ノ監休ニ加入シ爭擾ニ加擔シタル者

一、疾病其他ノ理由ニ依リ成業ノ見込ナシト認メタル者

一、本規程ニ違背スル者

第三十二條 貸費生卒業ニ至ラス退學シタルトキ及第三十一條各項ニ依リ貸費ヲ停止サレタル場合ハ總貸費額ヲ一ヶ年以内ニ返納スヘキモノトス

第三十三條 第二十九條第三十二條ノ貸費返納期限ハ兵役疾病其他止ムヲ得サル事情アルトキハ相當ノ期間猶豫スルコトアルヘシ

第三十四條 貸費生ハ毎年一月二十日限り履歴書既修學校長ノ成績證明書醫師ノ診斷書ヲ付シ師僧ノ外ニ確實ナル保証人二名以上連署ノ上支所ヲ經由シ申請スヘキモノトス

第三十五條 貸費生ハ別ニ定ムル書式ニ依リ貸費借用証書ヲ宗務所ニ提出スヘキモノトス但保証人ハ連帶責任者タルヘシ

第三十六條 貸費生保証人ハ師僧並ニ貸費返納ノ義務ヲ履行シ得ル資産アル者二名以上ヲ要ス

但保証人死亡又ハ資格喪失ノ場合ハ直ニ後繼者ヲ定メ手續スヘシ

第三十七條 本宗寺院住職ニシテ保証人タル者ニ對シ貸費返納ノ義務ヲ履行セシムル場合ハ宗費徵收法ヲ準用スルコトアルヘシ

第四章 証衡會

第三十八條 留學生及貸費生ニ關スル事項ヲ協議スル爲メ證衡會ヲ置ク

第三十九條 證衡會ハ左記各員ヲ以テ組織シ管長之ヲ特任シ任期ハ本職ノ任期ニ依ル

- 一、古義真言宗總務 一名
- 一、宗務所學務部長 一名
- 一、金剛峯寺執行中 一名
- 一、高野山大學長 一名
- 一、高野山大學々監中 一名
- 一、高野山中學長 一名

第四十條 證衡會ハ毎年二月中ニ開會シ總務タル證衡員ヲ以テ主査トス

但主査ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時ニ召集シ又ハ文書ヲ以テ諮詢シ會議ニ代フルコト

アルヘシ

一二六

第四十一條 留學生貸費生ノ會計ハ別途會計トス

第四十二條 本規程施行上必要ナル細則ハ詮衡會ノ協議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム
補 則

第四十三條 本規程中貸費ニ關スル規定ハ高野山中學卒業及同大學在學中ノ在家子弟ニ限
リ適用スルコトヲ得

補助學校認定

昭和四年二月二十八日教令第四十三號制定、昭和六年十一月二日教令第六十四號改正

第一條 本規程ハ宗規教育規則第十七條ニ依リ之ヲ定ム

第二條 補助教育認定ハ本宗徒弟ニ教師ノ資格ヲ得ルニ必要ナル傳燈次第並學科ヲ授クル
目的ヲ以テ團体又ハ個人經營ニ屬スル學校ニ限ルモノトス

第三條 補助教育學校トシテ認定ヲ申請スルモノハ左記事項ヲ具備セルモノニ限ル
一、經費支辨方法ノ確立セルモノ

二、専任教師三名以上有シ修學年限一ヶ年以上タルモノ

三、編成學科ニ加行、授戒、灌頂、聲明、宗乘普通學等教師ニ必要ナル諸科ヲ含メル

モノ

第四條 補助教育學校ニシテ必要アル場合ハ職員ノ任命ヲ管長ニ申請スルコトヲ得

第五條 每卒業試験ニハ委員ヲ派遣シ立會フモノトス

但其費用ハ當該學校ノ支辨トス

第六條 經營上不備ト認メタルトキハ認定ヲ取消スコトアルヘシ

第七條 會計並ニ學業成績ヲ各年度末ニ宗務所へ報告スヘキモノトス

第八條 認定補助教育學校卒業者ハ宗規ニ依リ教師試補ニ補任スルモノトス

但試補申請ノ場合ハ當該學校長ノ證明書ヲ添付シ支所長ニ於テ具狀スルモノトス

第九條 補助教育學校ニハ補助金ヲ交付スルコトアルヘシ

高野山大學々則

大正十五年四月二日大學令ニ依リ認可、昭和三年一月十七日、昭和四年一月十六日、昭和五年八月二十五日改正認可

第一章 總 則

第一條 本大學ハ大學令ニ依リ學術ノ理論及應用ヲ教授シ就中密敎學、一般佛敎學、佛敎

藝術學、哲學及人文學ノ蘊奧ヲ攻究セシメ併セテ國家思想ヲ涵養シ人格ヲ陶冶スルヲ以テ目的トス

第二條 本大學ニ文學部ヲ置ク

第三條 本大學ニ學部、大學豫科及研究科ヲ置ク

第四條 學部ノ在學年限ハ三年以上六年以内トシ研究科ノ在學年限ハ三年以上トス

第五條 大學豫科ハ修業年限ヲ二年トシ高等普通教育ヲ完成スルト共ニ學部ニ入ラントスル者ノ爲ニ必要ナル學科ヲ授ク

第二章 學 部

第一節 學 科 課 程

第六條 學部ニ開設スル學科目左ノ如シ

小乘佛教學	支那哲學及支那哲學史	科 學 概 論
大乘佛教學	東洋哲學史	教育學及教育史
密敎學	倫理學及倫理學史	梵
佛敎史	美學及美術史	巴 利
基督教史	佛教藝術學	西 藏
宗教學及宗教史	心 理 學	獨 逸
哲學概論	社會學	佛 蘭
西洋哲學及西洋哲學史	文學概論	英 西 語

一、西洋哲學史ハ二箇年繼續スルモノトス

二、前項ニ列舉セル學科目ノ外必要ニ應シ或ル科目ヲ開設スルコトアルヘシ

第七條 各學科目ノ授業ヲ分チテ講義、講讀及演習トス

第八條 一學科目一單位ノ授業時間ハ左ノ三種トス

一、一學期間毎週約六時間

一、二學期間毎週約三時間

一、一學年間毎週約二時間

第九條 學部ヲ分ナテ密敎學科、一般佛教學科、佛教藝術學科、哲學科トシ學生ヲシテ其ノ一ヲ選修セシム

第十條 各學年中ニ開始スル講義及其ノ題目ハ學年ノ始ニ之ヲ告示ス

學生ハ每學年ノ始メニ於テ其ノ學年ニ於ケル聽講學科目ヲ届出テ學長ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 學生ハ三學年間ニ左記ノ必修科目ヲ學修スルコトヲ要ス

但三學年以上在學ヲ志望スル者ハ其ノ在學年數ニ配當シテ學修スルモ妨ケナシ

密敎學科

四三一

- 佛 教 藝 術 學
美 學 及 美 術 史
語 學 (梵語、西藏語、巴利語ノ中三單位以上選修スヘシ) 四
計 一六

一 般 佛 教 學 科

- 佛 教 學 概 論 一
原 始 佛 教 學 一
小 乘 佛 教 學 一 (選擇) : 一
佛 教 學 特 殊 講 義 及 講 讀 六
密 教 學 概 論 一
密 教 史 一
密 教 學 特 殊 講 義 及 講 讀 一

印 度 佛 教 史

支 那 佛 教 史

日 本 佛 教 史

印 度 哲 學 概 論

宗 教 學 概 論

哲 學 概 論

西 洋 哲 學

支 那 哲 學

佛 教 學

教 育 學 概 論

社 會 學 概 論

心 理 學 概 論

一三六

倫理學概論

(選擇) : 四

宗教哲學史

東洋哲學史

佛教藝術學

美學及美術史

語學(梵語、西藏語學、巴利語ノ中二單位以上選修スヘシ).....四

計

佛教藝術學科

美學概論.....一

西洋美術史.....一

東洋美術史.....一

二六

佛教美術概說

佛教藝術學特殊講義及講讀

密教學概論

密教學特殊講義及講讀

佛教學概論

佛教學特殊講義及講讀

印度佛教史

支那佛教史

日本佛教史

宗教學概論

宗教史

一三七

哲學科

哲學概論	支那哲學	印度哲學	倫理學概論	社會學概論	倫理學概論
哲學概論	東洋哲學史	東洋哲學史	教育學概論	社會學概論	倫理學概論
倫理學概論	佛教藝術學	佛教藝術學	美學及美術史	美學及美術史	哲學概論
西洋哲學史	東洋哲學史	東洋哲學史	美學及美術史	美學及美術史	哲學概論
東洋倫理	東洋哲學史	東洋哲學史	美學及美術史	美學及美術史	哲學概論
西洋哲學史	西洋哲學史	西洋哲學史	美學及美術史	美學及美術史	哲學概論
東西洋哲學史	東西洋哲學史	東西洋哲學史	美學及美術史	美學及美術史	哲學概論
東西洋倫理學史	東西洋倫理學史	東西洋倫理學史	美學及美術史	美學及美術史	哲學概論
東西洋哲學史	東西洋哲學史	東西洋哲學史	美學及美術史	美學及美術史	哲學概論
東西洋倫理學	東西洋倫理學	東西洋倫理學	美學及美術史	美學及美術史	哲學概論
密敎史	密敎史	密敎史	美學及美術史	美學及美術史	哲學概論
密敎學特殊講義及講讀	密敎學特殊講義及講讀	密敎學特殊講義及講讀	美學及美術史	美學及美術史	哲學概論

佛教學概論

佛教學特殊講義及講讀

心理學概論

社會學概論

宗教哲學

宗教史

佛教藝術學

密敎學

一般佛教學

佛教史

宗敎學

美學及美術史

(選擇)六

美學及美術史

教育學

印度哲學

支那哲學

西洋倫理學

東洋倫理

西洋哲學

語學(英、獨、佛語中二語ヲ選修スヘシ)

計二六

第十二條 教授會ニ於テ必要ト認メタル場合ハ前條所定ノ學科目以外特ニ必修スヘキ科目ヲ指定シ又ハ其ノ授業單位數ヲ増減スルコトアルヘシ

第十三條 學生ハ每學年八單位以上ノ授業ヲ受クヘシ

但卒業期ノ者ハ五單位以上トスルコトヲ得

第二節 學年學期及休業

第十四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十日ニ終ル

第十五條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ六月三十日ニ至ル

第二學期 七月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第三學期 九月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十六條 定例休業日左ノ如シ

日曜日、大祭日、祝日

二月十五日 涅槃會

三月廿一日 正御影供

四月二日 學校記念日

四月八日 釋尊降誕會

六月十五日 宗祖降誕會

冬期休業 一月一日ヨリ三月十五日ニ至ル

第三節 入學、休學及退學

第十七條 入學ノ時期ハ學年ノ始トス

第十八條 學部ニ入學スルコトヲ得ルモノハ本學豫科ヲ修了シタルモノニ限ル

但欠員有ル場合ハ左ノ各號ノ一一該當スルモノニ順次入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一、高等學校高等科ヲ卒業シタル者

二、大學令ニ依ル大學豫科ヲ修了シタル者

三、大正七年文部省令第三號第二條第四號ニ依リ指定セラレタル學校卒業者

第十九條 願ニ依リ退學シタル者再ヒ入學ヲ願出ツル時ハ詮議ノ上復學ヲ許可スルコトア

ルヘシ

第二十條 入學志願者ハ規定ノ書式ニ依リ入學願書、履歷書、戸籍謄本及既修學校長ノ成績證明書ニ試驗檢定料ヲ添ヘ差出スヘシ試驗檢定料ハ金五圓トシ納付後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ返還セス

第二十一條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ一箇月以内ニ規定ノ書式ニ依リ保證人連署ノ在學誓書ヲ差出スヘシ

保證人ハ高野山内寺院住職及高野山内ニ一家計ヲ立テ學長ニ於テ適當ト認メタル者ニ限リ其ノ學生在學中ニ係ル一切ノ事件ニ付其ノ責ニ任スヘキモノトス

第二十二條 保證人轉居改印等ノコトアルトキハ直チニ其ノ旨届出ツヘシ死去其ノ他ノ事由ニ依リ保證人ヲ變更セントスルトキハ更ニ在學誓書ヲ差出スヘシ

第二十三條 本大學豫科修了者ニシテ引續キ學部ニ入學スルモノハ第二十條第二十一條ノ手續ヲ要セス

第二十四條 疾病其他不得止事故ニヨリ二ヶ月以上修學スルコト能ハサルモノハ學長ノ許

可ヲ得テ其ノ學年ノ終マテ休學スルコトヲ得

第二十五條 休學ノ許可ヲ得タルモノハ次學年ノ始ヨリ復學スヘキモノトス

但兵役ニ服スル場合ハ其ノ間休學スルコトヲ得

第二十六條 休學期間内ト雖モ其ノ事故止ムトキハ願ニ依リ復學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十七條 退學セントスルモノハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第四節 入學料及授業料

第二十八條 入學ヲ許可サレタモノハ入學料トシテ金五圓ヲ納付スヘシ

第二十九條 授業料ハ一學年金七拾五圓トシ左ノ三回ニ分納スヘシ

第一期 金貳拾五圓 四月十二日ヨリ二十日マテ

第二期 金貳拾五圓 七月十二日ヨリ二十日マテ

第三期 金貳拾五圓 九月十二日ヨリ二十日マテ

授業料納付後ハ何等ノ事由アルモ返付セス

授業料ハ所定ノ期日内ニ納付セサル者アルトキハ催告ヲナシ尙納付セサルトキハ之ヲ除籍ス

第五節 試験、卒業及稱號

第三十條 學部ニ於ケル試験ハ科目試験及學士試験ノ二種トス

第三十一條 科目試験ハ其ノ科目ノ聽講ヲ終リタル學期末若クハ學年末ニ筆記及口述ニヨリ之ヲ行フ

但當該學年授業豫定期數ノ三分ノ一以上缺席セル科目ニ就テハ其ノ科目試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三十二條 學士試験ハ三年以上在學シ所定ノ單位數以上ノ授業ヲ受ケ其ノ科目試験ニ合格シタル者ニ對シ論文ヲ課シテ之ヲ行フ

但論文審査ノ都合上特ニ口實試問ヲ行フコトアルヘシ

第三十三條 論文ノ題目ハ其ノ主トシテ學修シタル學科ノ範圍内ニ於テ之ヲ定メ且豫メ當

該學科擔當教授ノ承認ヲ受クヘキモノトス

論文ノ提出期ハ毎年一月十五日正午マテトス

第三十四條 論文試験委員ハ一論文每ニ二名以上トシ學長之ヲ選定ス

第三十五條 科目試験及學士試験ノ評點ハ百點ヲ滿點トシ六十點以上ヲ合格トス

第三十六條 正當ノ事由ニ依リ許可ヲ得テ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ願ニ依リ追試験ヲ行フコトアルヘシ

試験期日ハ學長之ヲ定ム

第三十七條 科目試験ニ合格シタル者ニハ願ニヨリ證明書ヲ附與シ學士試験ニ合格シタル者ニハ學士試験合格書ヲ授與ス

第三十八條 學士試験ニ合格シタル者ハ文學士ト稱スルコトヲ得

第三章 研究科

第三十九條 學士試験ニ合格シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノニシテ本大學

研究科ニ入學セントスルモノハ其ノ研究事項及方法ヲ具シ出願スヘシ
學長ハ教授會ニ附議シタル後適當ト認メタル者ニ限り之カ入學ヲ許可ス

第四十條 研究科學生指導ハ學長ノ選定シタル教授之ヲ擔任ス

第四十一條 研究科學生ハ其ノ研究報告ヲ每學年末ニ指導教授ヲ經テ學長ニ提出スヘシ

第四十二條 研究科學生ハ所定ノ年限在學ノ後其ノ研究事項ニ付キ論文ヲ學長ニ提出シ學位ヲ請求スルコトヲ得學位ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第四十三條 研究科學生ニシテ其ノ研究成績特ニ顯著ナルモノニ對シテハ學費ヲ支給スルコトアルヘシ

第四十四條 研究科學生ハ特ニ學長ノ許可ヲ得タルモノノ外ハ他ノ業務ニ從事シ又ハ本學所在地以外ニ居住スルコトヲ得ス

第四十五條 研究科學生ハ在學料トシテ年額金五拾圓ヲ學年ノ始ニ納付スヘシ

第四章 大學豫科

第一節 學科課程

第四十六條 大學豫科ノ學科課程左ノ如シ

	第一學年(授業時間週)						第二學年(授業時間週)					
修 身												
佛 教 學	二	四	四	九	五	二	一	二	二	四	四	九
國 語 史												
漢 文 史												
外 國 語 史												
哲 學 史												
理 心 理												

法 制 經 濟	二	
自 然 科 學	二	
體 操	二	

計	三四	
	三四	
	三四	

第一外國語ハ英語若クハ獨語トス

第二外國語ハ英語、獨語、佛語ノ中其ノ一ヲ選修スヘキモノトス

第二節 學年學期及休業

第四十七條 第十四條第十五條第十六條ハ之ヲ豫科ニ適用ス

第三節 入學、休學及退學

第四十八條 豫科ノ入學期ハ學年ノ始トス但第一學年ニ歛員アル場合ニ限リ七月ノ始ニ入學セシムルコトヲ得

第四十九條 豫科ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ品行方正ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ且入學試験及身體檢查ニ合格シタル者ニ限ル

一、中學校卒業者

二、專門學校入學者檢定規程ニ據ル試驗検定ニ合格シタル者

三、一般專門學校ノ入學ニ關シ專門學校入學者檢定規程ニヨリ指定ヲ受ケタルモノ

第五十條 前條等一號及第三號ノ學校ヲ其ノ年三月ニ卒業スヘキ見込ノ者ハ入學ヲ出願スルコトヲ得但此場合ニ於テ入學期マテニ卒業スルコト能ハサル者ハ入學ヲ許サス

第五十一條 入學試験ハ中學校卒業ノ程度ニ依ル

入學試験ノ學科目ハ其都度學長之ヲ定ム

第五十二條 第十九條乃至第二十二條乃至第二十四條乃至第二十七條ハ之ヲ豫科ニ適用ス

第五十三條 學生疾病又ハ其他ノ事故ニヨリ缺席スル時ハ必ス事由ヲ具シ届出ツヘシ

但病氣缺席七日以上ニ及フ時ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スルヲ要ス

第五十四條 缺席届出ノ日數ハ一月ヲ超ユルヲ得ス若シ一月ヲ經過シ其ノ事由尙止マサル時ハ其都度新ニ其手續ヲナスヲ要ス

第四節 入學料及授業料

第五十五條 第二十八條ハ之ヲ豫科ニ適用ス

第五十六條 授業料ハ一學年金六拾圓トシ左ノ三回ニ分納スヘシ

第一回 金貳拾圓 四月十二日ヨリ二十日マテ

第二回 金貳拾圓 七月十二日ヨリ二十日マテ

第三回 金貳拾圓 九月十二日ヨリ二十日マテ

第二十九條 第二項及第三項ハ之ヲ豫科ニ適用ス

第五節 試験進級及終了

第五十七條 豫科ノ試験ハ臨時試験及學期試験ノ二種トス

第五十八條 臨時試験ハ受持教授ノ見込ニヨリ之ヲ行ヒ學期試験ハ各學期ノ終ニ於テ之ヲ

行フ

第五十九條 第一學期試験及第二學期試験ニ於テハ其ノ學期中ニ學修シタル科目ニ付キ之ヲ行ヒ第三學期試験ニ於テハ學年中ニ學修シタル諸學科ノ全部ニ付キ之ヲ行フ

第六十條 一學期間ノ授業豫定日數ノ三分ノ一以上缺席シタル者ハ當該學期試験ヲ受クルコトヲ得ス

但缺課三時間ヲ以メ一日ニ換算ス

第六十一條 試験得點ハ百點ヲ満點トシ六十點以上ヲ合格トス

第六十二條 學期評點ハ各學期試験點ニ其ノ學期中ノ平常點及臨時試験點ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第六十三條 學科ニヨリテハ學期試験ヲ行ハス平常點及平素ノ勤惰ニヨリ其ノ評點ヲ定ムルコトアルヘシ

第六十四條 學年評點ハ各學期評點ノ和ヲ三除シタルモノトス

第六十五條 各學科目ノ學年評點六十點以上ノモノノミヲ進級セシメ其他ノ者ハ原級ニ留ム

第六十六條 學年評點前條ニ該當セサルモ左ノ各號ノ一一該當スル者ハ教授會ニ於テ平素ノ勤惰操行等ヲ考查シ特ニ進級セシムルコトアルヘシ

一、學年評點總平均六十五點以上ニシテ六十點未滿五十點以上ノ科目一科ニ止マル者
一、學年評點總平均七十點以上ニシテ六十點未滿五十點以上ノ科目二科目以内ニ止マ
ル者

第六十七條 正當ノ理由アリト認メタル者ニ限リ第一學期試驗及第二學期試驗ノ中其ノ一ノミハ缺席ヲ許可スルコトアルヘシ

但此場合ニ於ケル當該學期ノ評點ハ其ノ學期中ノ平素ノ成績ニ他ノ二學期評點ヲ參酌シ
テ推定點ヲ附スヘシ

第六十八條 疾病其他不得已事故ニヨリ許可ヲ得テ第三學期試驗ニ缺席シタル者ハ願出ニ
ヨリ追試驗ヲ行フコトアルヘシ

第五章 選科生及特別生

第六十九條 學部ニ於テ相當ノ學力アリト認メタル者ニ限リ選科生トシテ入學ヲ許可ス

第七十條 學部選科生ノ學科課程左ノ如シ

大學選科學科規程

密 教 學 概 論 ······ 一

密 教 史 ······ 一

密教學特殊講義及講讀 ······ 一

佛教學概論 ······ 一

原始佛教學 ······ 一

小乘佛教學 ······ (選擇) ······ 一

佛教學特殊講義及講讀 ······ 一

印度佛教史 ······ 一

支那佛教史

一五六

日本佛教史

一

宗教學概論

一

宗敎史

一

哲學概論

一

印度哲學

一

支那哲學

一

倫理學概論

一

心理學概論

一

社會學概論

一

教育學概論

一

第七十一條 選科生ニシテ學修ノ科目ニ付受驗ノ上合格シタル者ニハ學修證明書ヲ附與ス

第七十二條 第十八條第四十九條ニ規定セル入學資格ナキ外國人ニシテ入學ヲ希望スルトキハ詮衡ノ上特別生トシテ豫科又ハ學部ヘ入學ヲ許スコトアルヘシ

第七十三條 特別生ノ修業年限及學科課程ハ凡テ正科生ニ準スルモ場合ニヨリテハ特別ノ授業ヲ開クコトアルヘシ

第七十四條 特別生ニシテ規定ノ年限在學シ相當ノ成績ヲ示シタル者ニハ學修證明書ヲ附與ス

第七十五條 選科生及特別生ハ正科生ト同額ノ授業料ヲ納付スヘキモノトス

第七十六條 第三十八條ハ選科生及特別生ニ對シ之ヲ適用セス

第六章 賞 罰

第七十七條 學業優秀志操堅實ナル者ニハ學資ノ給與若クハ他ノ方法ニテ旌表スルコトア
ルヘシ

第七十八條 左ノ各項ノ一ニ該當スル者ハ懲誠ス

一、學生不似合ノ所行アルモノ

二、學則規定ニ違反シ又ハ風紀ヲ害スル所業アルモノ

三、學業ヲ怠ル者

第七十九條 懲誠ハ輕重ニヨリ戒飭、停學又ハ放學ニ處スルモノトス

第七章 職 制

第八十條 本學ニ左ノ職員ヲ置ク

學 長 一 名

學 監 一 名

學 部 長 一 名

豫科部長 一 名

圖書館長 一 名

教 授 若干名

助 教 授 若干名

學 生 主 事 一 名

察 監 若干名

司 書 若干名 書 記 若干名

第八十一條 學長ハ本學一般ノ事務ヲ總攬シ本學ヲ代表ス

第八十二條 學監ハ學長ヲ補佐シ一般ノ教務庶務及會計ニ關スル事務ヲ掌理ス

第八十三條 學部長ハ學長ノ命ヲ承ケ學部ニ關スル學務ヲ掌理ス

第八十四條 豫科部長ハ學長ノ命ヲ承ケ豫科ニ關スル教務ヲ掌理ス

第八十五條 圖書館長ハ學長ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ヲ監理ス

第八十六條 教授ハ學生ヲ教授シ其研究ヲ指導ス

第八十七條 助教授ハ教授ノ職務ヲ助ク

第八十八條 學生主事ハ學長ノ命ヲ承ケ學生ノ監督及訓育ニ關スル事ヲ掌ル

第八十九條 察監ハ學生主事ノ命ヲ承ケ學生ヲ監督シ察務ヲ掌ル

第九十條 司書ハ圖書館長ノ命ヲ承ケ圖書ノ記錄保管整理及閱覽ニ關スル事務ヲ掌ル

第九十一條 書記ハ上長ノ命ニヨリ教務庶務會計ニ關スル事務ニ從事ス

本則ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ實施ス

高野山中學々則

一六〇

大正十五年三月二十二日改稱認可 昭和三年九月二十九日學則一部改正認可

第一條 本學ハ眞言宗ノ教義、佛教一般ノ要義並ニ須要ナル高等普通教育ヲ授クルヲ以テ目的トス

第一章 總則

第二條 本學ノ修業年限ヲ五箇年トス

第二章 學科課程及授業時間

第三條 本學ノ學科課程及授業時間ヲ定ムルコト左ノ如シ

學科目	學年	第一學年	數時	第二學年	數時	第三學年	數時	第四學年	數時	第五學年	數時
修	聲	明	四	同	上	五	同	上	四	同	上
身	道	聲	二	同	上	四	同	上	四	同	上
道	德	要	二	同	上	五	同	上	四	同	上
德	要	領	一	同	上	五	同	上	四	同	上
要	領	一	一	同	上	五	同	上	四	同	上
領	一	一	一	同	上	五	同	上	四	同	上
一	一	一	一	同	上	五	同	上	四	同	上
一	一	一	一	同	上	五	同	上	四	同	上
一	一	一	一	同	上	五	同	上	四	同	上

英語	漢國文語	歷史	地理	數學	博物	物理化學	圖畫	法制經濟	體操
會話	發音讀字書取習字方	史國史	日本地理	代算	植物	自任畫	畫	普通兵式練	計
六	六	一	二	五	二	一	同	三五	三五
會作文、譯文取解	作文漢文書取解	同上	外國地理	代數	動物	同上	同上	同上	同上
六	六	二	一	四	生物	上	同上	五	三三
文同	東洋史	同上	生理衛生	代歲	生物	上	同上	同上	三四
六	六	二	二	五	博鑽物通論物	同上	同上	同上	三五
法上	西洋史	一	同	四	博鑽物通論物	上	同上	同上	同上
五	五	二	同	三歲	地文學	上	西國史	六	三五
同	西洋史	一	同	角何四	地文學	上	西洋史	六	三六
同上	史	同上	同上	四	史	一	二	七	五

第三章 學年學期及休日

第四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期 四月一日ヨリ八月三十日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 一月一日ヨリ三月三十日ニ至ル

第六條 定例休業日左ノ如シ

一、日曜日、大祭日、祭日

一、二月十五日 涅槃會

一、三月二十一日 正御影供

一、四月八日 佛生會

一、五月一日 學校創立記念日

一、六月十五日 宗祖降誕會

一、春期休業 三月廿六日ヨリ四月五日ニ至ル

一、夏期休業 八月廿六日ヨリ九月五日ニ至ル

一、冬期休業 十二月廿六日ヨリ翌年一月廿五日ニ至ル

第七條 四方拜、紀元節天長節及明治節ニハ教職員生徒學校ニ參集シ拜賀式ヲ舉ケ涅槃會、正御影供、佛生會、宗祖降誕會ニハ各報恩ノ法式ヲ行フ

第四章 入學、休學及退學

第八條 入學ノ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス、但缺員アルトキハ第二學期ノ始ヨリ十日以内ニ入者セシムルコトアルヘシ

第九條 第一學年ニ入學ヲ許スヘキ者ハ本宗及信徒ノ子弟ニシテ左記各號ニ示ス資格ノヲ有スルモノトス

一、尋常小學校ヲ卒業シタルモノ

一、尋常小學校卒業ノ程度ニヨリ國語、算術、國史、地理、理科ノ五科目ノ検定ニ合

格シタルモノ

第十條 前條ノ資格ヲ有スル入學志願者數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スル時ハ選拔ス
第十一條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ其志願ノ學年ニ至ル迄ニ履修スヘキ各學年
ノ各學科検定ニ合格シタル者トス

第十二條 官公立及認定私立中學校ヨリ轉學ヲ志願スルモノニ對シテハ必要ニ應シ或科目
ニ付検定ノ上相當學年若クハ以下ノ學年ニ編入ス

第十三條 入學志願者ハ規定ノ書式ニヨリ入學願書、履歷書、戸籍謄本及出身學校長ノ調
査書ヲ差出スヘシ

第十四條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ十日以内ニ保證人連署ノ誓約書ヲ差出スヘシ

第十五條 保證人ハ本宗寺院子弟ニアリテハ師僧及ヒ高野山内寺院住職ノ二名ヲ要シ本宗
檀信徒子弟ハ父兄及ヒ高野山内寺院住職若クハ高野山内ニ住居スル成年以上ニシテ一戸
ヲ構ヘ本學ノ適當ト認メタルモノ、二名ヲ要ス

第十六條 保證人ハ其生徒ノ在學中ハ勿論本學ノ學籍ヲ脱シタル後ト雖モ在學中ニ起リタ

ル事件ニ關シテハ其責ニ任スヘキモノトス

第十七條 保證人死去若クハ變更其他改印等ノコトアルトキハ保證人及生徒ハ直チニ其手
續ヲナスヘシ

第十八條 疾病其他止ムヲ得サル事故ニ因リ授業ニ缺席セシ時ハ其事由ヲ詳記シ三日以内
ニ保證人連署ノ上届出ツヘシ

第十九條 疾病其他止ムヲ得サル事故ニ因リ二ヶ月以上修學スルコト能ハサル者ハ保證人
連署ノ上休學ヲ願出テ學長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條 休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ始ヨリ復學スヘキモノトス
但兵役ニ服スル場合ハ其間休學スルコトヲ得

第二十一條 休學期間内ト雖モ其事故止ムトキハ願ニヨリ復學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十二條 修學半途ニシテ漫リニ退學若クハ轉學スルコトヲ許サス 但止ムヲ得サル事
故ニ因リ保證人ノ連署ヲ以テ出願スル時ハ詮議ノ上之ヲ許スコトアルヘシ

第二十三條 願ニ依リ退學シタル者ニシテ一ヶ年以内ニ再入學ヲ出願スル時ハ退學ノ理由在學中ノ操行及學業成績ヲ考查シ原級ニ編入スルコトアルヘシ

第五章 入學手數料及授業料

第二十四條 入學ヲ志願スルモノハ手數料トシテ金貳圓ヲ納付スヘシ

第二十五條 授業料ハ一箇年金四拾貳圓トス

第二十六條 授業料ハ各學期開始後二週間以内ニ其學期分(第一、二學期各金拾五圓)ヲ一時ニ納付スヘシ但月割分納スルコトヲ得

入學手數料ヒ及授業料納付後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ返付セス

授業料ヲ所定ノ期日迄ニ納付セサル者アル時ハ催告ヲナシ尙ホ納付セサルトキハ之ヲ除名ス

第六章 成績考查、進級及卒業

第二十七條 第二十八條 (削除)

第二十九條 各學科目ノ評点ハ平素ノ成績ニ依リ之ヲ定ム

第三十條 (削除)

第三十一條 各學科目ノ評點ハ一百點ヲ以テ満點トス

第三十二條 各學科目學年評點ハ第一、第二、第三學期ニ於ケル各評點ノ和ヲ三除シタルモノトス

第三十三條 第三十四條 (削除)

第三十五條 成績考查ノ際不正行爲アリタル者ハ事情ノ如何ヲ問ハス其學期ニ於ケル其學科ノ評點ヲ零トス

第三十六條 操行評點ハ甲、乙、丙、丁ノ評語ヲ以テ現ハシ各學期中ノ法會儀式學業ノ勤惰及ヒ性行等ニ依リ各學期末ノ操行會議ニ於テ之ヲ査定ス

但操行學年評點ハ各學期末ニ定ムル評點ヲ參酌シ第三學期末ノ操行會議ニ於テ評定ス

第三十七條 操行學年評點丙以上各學科目ノ學年成績五十點以上其平均六十點以上ヲ及第

但平均六十點以上ニシテ二科目以内五十點未満四十點以上ノ者アルトキハ學校長ノ見込ニ依リ及第トナスコトヲ得

第三十八條 缺席日數一學期間五十日又ハ一學年間通計七十日ニ達シタルモノハ進級ヲ許サス 但缺課五時間ヲ以テ缺席一日ニ換算ス

第三十九條 第五學年ノ學年評點進級得點ノ者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第七章 賞 典

第四十條 賞典ハ學術優等證、操行優等證、精勤證ノ三種トス

第四十一條 學術優等證ハ一學年間各學科目學年評點平均九十一點以上ノモノニ一等證、同八十六點以上ノモノニ二等證ヲ授與ス

但卒業證書ヲ授與セラル、モノニシテ三ヶ年以上在學シ每學年各學科學年評點平均八十六点以上ノモノニハ卒業成績一等證、同八十一點以上ノモノニハ同二等證ヲ授與ス

第四十二條 操行優等證ハ及第者中操行學年評點甲ヲ得タルモノノ中特ニ優等ト認メシモノニ授與ス

第八章 懲 誠 及 處 分

第四十三條 精勤證ハ一學年間中缺席、缺課、遲刻無キモノニ授與ス
ニヨリ左ノ懲誠ヲ加フ

一、譴責 一、禁足懲悔 一、停學懲悔 一、退學

第四十四條 生徒ニシテ學則及命令ヲ恪守セス其他生徒ノ本分ニ違フ言行アルモノハ輕重

ノハ此限ニアラス

二、引續キ一箇年以上缺席シタル者 但第二十條但書ニ依リ休學ヲ許可セラレタルモノハ此限ニアラス

四、出席常ナラサル者

五、正當ノ理由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

第四十六條 退學處分ヲ受ケタル者ニシテ悔悟ノ情狀特ニ顯著ナル者ハ滿一箇年後復學ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十七條 (削除)

第九章 制服

第四十八條 本學生徒ノ制服ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一種 法服

一 空衣 金巾地 黒色 一 白袈裟 金巾地

第二種 授業服

上衣 脊廣形詰襟 小倉地 冬期ハ黒色 夏期ハ霜降

鈕釦 真鍮製本學徽章附

ズボン 製式普通 品質 色 上衣ニ同シ

帽 章 本學所定ノ學生帽

帽 章 真鍮製 本學徽章附

靴 編上 黑色

ケートル 茶褐色 卷脚袢

第四十九條 第一種制服ハ法會儀式ニ第二種制服ハ授業旅行等ニ之ヲ用フ

第五十條 前條所定ノ如ク制服ヲ着用スルコト能ハサル事由アルモノハ期限ヲ定メテ許可願ヲ差出シ許可ヲ得タル後ニ非サレハ式場又ハ教室ニ入ルコトヲ得ス

第十章 寄宿舎

第五十一條 生徒ハ必ス寄宿舎ニ入舍セシム 但寄宿舎滿員ノ場合保証人若クハ本學教師

居宅ニ止宿スル者ハ學長ノ認可ヲ得テ通學スルコトヲ得

第五十二條 前條規定以外ニ於テ必要ト認メタル時ハ入舍又ハ退舍ヲ命スルコトアルヘシ

第五十三條 生徒ハ舍監ノ指定シタル室ニ入り好惡ヲ云フヲ得ス、又私ニ轉室スルエトヲ許サス

第五十四條 自修、勤行、点検、食事、外出、入浴、消燈等舍内ノ行事時間割ハ晝夜ノ長短ニ從ヒ適宜舍監之ヲ定メテ施行ス

第五十五條 舍生ハ定日マテニ舍費トシテ毎月金壹圓ヲ納付スヘシ

第五十六條 舍生ハ規定ノ食費ヲ毎月定日マテニ納付スヘシ

第五十七條 疾病、外泊歸省等臨時發生ノ事項ニ關シテハ總テ舍監ニ願出テ其ノ指揮ヲ待ツヘシ

第五十八條 寄宿舍統理上舍長若干名ヲ置キ上級生徒ニ就キ學期毎ニ學長之ヲ任命シ舍監ノ指揮ヲ受ケテ舍内ノ行事ヲ處理セシム

第五十九條 勤行ハ最モ嚴肅ニ之ヲ修スヘシ 舍監ノ許可ヲ得スシテ缺席スルコトヲ得ス

第六十條 舍内ノ禁條ハ左ノ如シ

一、本校生徒ノ品位ヲ汚ス言語舉動アルヘカラス

二、門限以後ハ外出ヲ許サス 但止ムヲ得サル事情アリト認メタル時ハ舍監之ヲ許ス

コトアルヘシ

三、自修時間及門限後ハ他室ニ出入スヘカラス

四、生徒相互間ニ於テ金錢物品ノ貸借ヲナスヘカラス

五、自修時間中ハ高聲ニ讀書スヘカラス

六、私ニ校僕ヲ使役シ又ハ私ニ賄方ニ對シ食事ニ關スルコトヲ命スヘカラス

七、其他共同生活ノ德義ニ違背シ他人ノ迷惑トナル行為アルヘカラス

第六十一條 舍生ヲシテ犠牲勤勞ノ觀念ト剛健質實ノ氣風トヲ養成セシメンカ爲メ特ニ定メタル作業ニ就カシムルコトアルヘシ

第六十二條 舍生ニシテ風紀秩序ヲ紊亂スル行爲アリタル時ハ舍監之ヲ懲誠シ其ノ重キモノハ學長之ヲ懲誠ス